



第19号

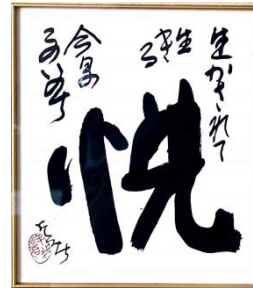
編集発行

園田学園女子大学

シニア専修コース

「けやき便り」

編集クラブ



悦 生かされて生きる今日のこのいのち

—理事長室にある盾（右上写真）の格言—

学校法人園田学園 理事長 齊藤 悦一

昨年7月、一谷宣宏前理事長が急逝されました後を受け、理事長に就任し1年半近くが経過しました。

高校時代の友人で昭和19年生まれの同い年であっただけに、志半ばでの若い死は本当に残念で、胸を締め付けられる思いでありました。ここ10年少しの間に大学同期の友人、前職会社の同期の友人を相次いで数人亡くしており、さらに、身内では、同時期に連れ合いを、また実の両親、義理の両親、叔父3人を亡くし、胸の痛みに耐えながら、人の命の儚さを感じ続けているところです。

年代を考えると皆様の中には同様の境遇にある方もおられると思いますが、意を強くし、前を向いて生きていかなければならないと思います。

一谷前理事長をはじめ私の周りで亡くなった人々に思いを馳せるとき、私に長く生き、何か皆さんの代わりに社会に貢献してくれと、語りかけられているような感じがしています。

私は大学を卒業してから50年を経過しましたが、その間ずっと働きづめで、仕事に関連する勉強はしましたが、勉学を純粹にするということはありませんでした。同世代のシニアの皆様が元気に専門的な勉強に励んでおられることに敬意を表したく思うとともに、私も見習わなければならないと思うこの頃です。

60歳で前職を定年退職の後、私は一谷前理事長との縁で、園田学園という教育の場で働かせてもらっていることが一つの運命であり、幸い私は大手術はしましたが、まだ健康であり、園田学園の教育活動のさらなる発展のために最善を尽くしていきたいと考えております。

座右の銘は「物来順応」です。自分の周りに起こることに逆らうのではなくそれを受け入れ、心をありのままに従わせ生きることと解釈しています。

目 次

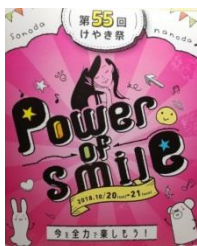
生かされて生きる今日のこのいのち・・・・・・・・・・	齊藤 悦一 理事長	P 1
第 55 回けやき祭（10/20、21）・・・・・・・・・・	「けやき便り」編集クラブ	P 3
「情報学科懇親会」開催報告・・・・・・・・・・	情報 3 年 大西 正記	P 5
万葉の旅「和歌浦から藤白へ」・・・・・・・・・・	文歴 3 年 高山 純子	P 6
松山利夫先生と『遠野物語』の旅・・・・・・・・・・	国際 3 年 河田かつのぶ	P 7
思い出すことなどー遠野物語の旅ー・・・・・・・・・・	研究生 橋本 秀明	P 9
神戸新開地・喜楽館を観て・・・・・・・・・・	研究生 木下 俊造	P10
田山花袋『蒲団』の文学故地を訪ねて・・・・・・・・・・	研究生 橋本 秀明	P11
ミャンマー講演会が行われました・・・・・・・・・・	研究生 阪田 正樹	P13
思いを馳せる・・・・・・・・・・	研究生 井上 聖明	P14
メコン川を旅する・・・・・・・・・・	研究生 十河 和夫	P15
ジョージア（グルジア）訪問合唱団に随行して・・・・・	研究生 峠田 桂子	P19
誇り高き満州旗人・・・・・・・・・・	国際 2 年 木田 信正	P21
時友村「諸事留控帳」にみる江戸の世相と暮らし・・・・・	文歴 1 年 藤原多計治	P24
中国 九江市への旅・・・・・・・・・・	文歴 3 年 服部 年隆	P25
第 50 回例会「ツバメのねぐら入り」・・・・・・・・・・	研究生 中村米三郎	P27
「心に残る人たちとの出会い」を出版して・・・・・・・・・・	卒業生 樽井 敏彦	P28
「サ高住心得帖」・・・・・・・・・・	研究生 酒井恵理子	P29
《ざっきちょうから》 星占いと免許証・・・・・・・・・・	研究生 金森扶美子	P31
けやきカラオケクラブ探訪記・・・・・・・・・・	「けやき便り」編集クラブ	P32
読者の広場・・・・・・・・・・	研究生 伊藤 幸子・文歴 3 年 阿部野英男	P33
社会連携推進センター生涯学習ユニットからのお知らせ		P34
「けやき便り」への投稿について、編集後記・・・・・・・・・・	「けやき便り」編集クラブ	P35



10月20日(土)と21日(日)に恒例の「けやき祭」が開催されました。今年は二日間とも好天に恵まれ、恰好のお祭り日和となりました。

今年のテーマは「『Power of Smile』今を全力で楽しもう！」です。

例年通り、学園の正門の入り口からけやきアベニュー沿いに連なるテント屋台は、女子学生による食べ物販売や催し物の掛け声で賑わい、学生はもちろん、多くの地域住民や家族連れで賑わいました。



シニアによる取り組みでは、今年も力のこもったブースが設置され、ライブステージもあって、主な会場となった開花亭にたくさんの来場者を迎えることができました。

①時代屋

社会連携推進センターの企画による「時代屋」ブースです。シニア専修コースと公開講座に関する相談コーナーや、ダーツ、黒ひげ、魚釣り



ゲームの一回100円、景品付きハズレなしのゲームコーナーを開設。的を射たり、魚を釣った子供が得意顔ではしゃぎ、ご家族の皆さんの笑顔誘っていました。

②けやき軽音楽同好会

一日目は「野外ステージ」で約30分のライブ演奏、二日目は「開花亭のステージ」で約1時間にわたり熱演を披露しました。

3年前に結成されたシニアバンドは、ドラム、サックス、ボーカルなど新しいメンバーも加えながら回を重ねるたびにパフォーマンスを高めています。特に園田の卒業生を歌姫に迎え、また女性陣ボーカル「園田シスターズ」の登場で魅力度アップ、親近感あふれるバンドになってきています。今回も、「熱烈」サポーターが駆けつける中、シニアにとって懐かしい曲も披露され、大きな拍手を浴びていました。



③けやき朗読倶楽部

二日間にわたり、開花亭のステージで朗読発表がありました。1年前に結成されたばかりの倶楽部は、いまや18名のメンバーで構成される大所帯。朗読は、

- 1) 100万回生きたねこ (佐野洋子作)
- 2) 大阪ことばあそびうた (島田陽子作)
- 3) 注文の多い料理店 (宮沢賢治作)



それぞれ2名から10名くらいの読み手が朗読劇形式で、バックにパワーポイントを使い、心に響く語り口で、聴衆を物語の世界に引き込みます。日頃の練習の成果を感じさせてくれました。

④けやき遊歩クラブ

スクリーンとパソコン、そして印刷した小冊子で、これまでに訪問した各地の写真や訪問記を紹介してくれました。内容の充実度抜群！でした。



奥から IT クラブ、遊歩クラブ、今西さんの切り絵 各コーナー

⑤けやき IT を楽しむ会

代表の中村さん自らが入力して完成させた「インベーダー」を思い起こさせるゲームの体験コーナーが設置されました。慣れないせいか、



シニアブースの宣伝に行ってきま〜す！
(左端中村さん)

すぐにやられてゲームオーバーとなりましたがとても楽しめました。

⑥切り絵体験コーナー

研究生の今西さんが、得意の切り絵を体験できるコーナーを開設しました。仏像のシルエットなど切り絵で幻想的かつ美しく表すことができます。切り絵の仕組みを教えて頂き、体験すると、カッターの力を入れ具合や曲線部を滑ら



切り絵の作品例

かに切るのが難しいのですが、集中できてそれが楽しいのです。今西さんは、いま仲間を集め、クラブの立ち上げを考えておられます。皆さんぜひ！

開花亭では、例年通り女子学生による抹茶コーナーも開設され、300円でお菓子和抹茶を味わわせてくれました。多くの方が「お菓子もお茶もおいしい〜」と好評でした。



開花亭でくつろぐ人々、手前は抹茶コーナー

来年も、さらに多くの方々に来ていただけるよう、みんなでこのけやき祭を盛り上げていけたらと思いました。

(写真と文：「けやき便り」編集クラブ

平田、宮本、桜井)

平成30年度「情報学科懇親会」開催報告



情報学科3年
大西 正記

7月8日(月)情報学科の懇親会が「チャティー」で開催されました。

今年の懇親会は、当初6月18日(月)に開催予定でしたが、当日の「大阪北部地震」により延期されていました。

懇親会には、1年生18名、2年生12名、3年生9名、教職員8名、計47名の参加をいただきました。

4月の中旬より、何度も打ち合わせを行い、地震を乗り越え開催にこぎつけました。

当日は、16時より受付を始め、抽選により、各テーブルを決めました。

各テーブルには、1, 2, 3年生と教職員が必ず同席するようにし、各学年間と教職員との懇談が図られるように配慮しました。

定刻の16時30分になると、まず全員での記念撮影を行い、その後、3年生大西の司会で、懇親会が始まりました。

まず、来賓として、情報教育センター難波所長、社会連携推進センター松葉所長、基礎演習などの山口講師から、心構え、初心に帰るなどの挨拶、祝辞をいただきました。

その後、2年生の村井さんの乾杯の発声により、歓談、飲食になりました。

各テーブルでは、各学年間の話がはずみ、また、教職員に、授業内容を質問するなど時間の経つのを忘れるほどでした。

新入生の中には、授業に対する不安があったようですが、「我々でも何とかなっている。クラスメイトが助けてくれる」との的確な？アドバイスもあり、会は進んで行きました。

中締めに来賓挨拶として、応用演習の山本名誉教授、センターの大野課長、そして、TA代表として、堀越さんからそれぞれ軽妙な楽しいお話をいただきました。

生協の盛りだくさんの料理とビール、ワイン、焼酎を堪能し、各テーブルの状況を見て、イベントのビンゴゲームを始めました。

ビンゴを始めてしばらくは、番号を読み上げても静かでしたが、次第に勇ましいビンゴ成立の音が響き渡り、そのたびに希望の賞品を選び授与されていきました。全員に賞品が渡った19時前に懇親会を終了しましたが、大変に盛り上がったと思いました。



また、今回の懇親会では、クラス内だけでなく学科全体のつながりが出来たのではないかと感じました。

会場の盛り上がり時間に時間配分を間違え、クラス委員、在校生の紹介を失念してしまいました。大いに反省です。皆様すみませんでした。

最後に、今回の開催にあたり、ご協力いただいた、各学年のクラス委員、参加いただいた皆様、来賓各位に感謝いたします。

有難うございました。

万葉の旅

「和歌浦から藤白へ」

— 影山先生と夏のバス旅行 —

文学歴史学科3年 高山 純子

暑さ真っ盛りの2018年7月末、影山先生の主催により「日本文学Ⅰ」の夏のバス旅行が実施された。総勢約45名を乗せたバスは和歌山市内へ入り、車窓から和歌山城を眺めながら和歌浦へ向かった。途中、紀伊東照宮が見える。

最初に到着したのは、聖武天皇が行幸し、歌の神様とされる玉津嶋神社である。あちこちに歌碑があった。玉津嶋神社周辺には、六つの小高い島山がある。昔、これら島山は潮が引くと陸続きであるが、満潮になると、あたかも玉のように海中に点在していたと推察される。現在、島状を留めているのは三段橋を隔てて妹背山のみである。

三段橋を渡って妹背山に進むと、先端には初代紀州藩主・徳川頼宣により建てられた観海閣・多宝塔がある。ここからは、和歌川を挟んで正面に名草山と、その中腹に紀三井寺を見ることができる。まるで絵を見ているような眺めである。また、玉津嶋神社のそばには安産の神様・鹽竈(シオガマ)神社もある。

その後、不老橋を通過して片男波公園にある「万葉館」を見学した。「片男波」は砂嘴(サシ)で、名称は山部赤人の歌『若の浦に 潮満ち来れば 瀉を無み 葦辺を指して 鶴(タヅ)鳴き渡る』に由来するという。

そしてバスは海沿いの、ドライバー泣かせの急カーブの細道を難なく抜けて雑賀崎へと登って行った(拍手!)。昼食後、番所(バンドコ)庭園を訪れた。番所庭園のある場所は、「番所の鼻」と言い、平坦で海に長く突き出た地形で、紀州藩が海の防備見張りのための遠見番所を設けたところである。展望台からは眼前の双子島を始め、四国・淡路島・友ヶ島・紀伊半島の山々・六甲山まで見渡せる。雄大な風景に、しばし暑

さを忘れた。

また、聖武天皇が行幸したときにお供した藤原卿が、ここから「雑賀(サイカ)の浦」の漁火を見て、詠んだと言われている歌『紀の国の 雑賀の浦に 出で見れば 海人の燈火 波の間ゆ見ゆ』の歌碑があった。

すばらしい景色を満喫したあとは、漆器の町・黒江を散策した。

黒江の家並みはのこぎりの歯のように並び、どの家の前にも三角形の空き地があるのが特徴である。これは江戸時代に黒江の入り江を埋め立ててできた平行四辺形の宅地に家を建てたためだそうだ。

最後に藤白神社へ向かう。藤白神社は、古くは藤白王子、藤代王子と記され、熊野九十九王子の一つである。謀反の疑いをかけられた孝徳天皇の皇子・有間皇子は、藤白神社から藤白峠を越える熊野古道の坂、藤白坂で絞首された。



有間皇子の歌に『家にあれば 笥に盛る飯を 草枕 旅にしあれば 椎の葉に盛る』とある。

さぞ無念であったろう。現在、坂の登り口近くに皇子の墓(写真左)とされる

五輪石と歌碑が建っている。

藤白神社の近くには、「鈴木姓」のルーツだといわれる鈴木屋敷もあるが、今は荒廃している。

こうして酷暑と美しい景色と数々の万葉歌を思い出に、紀伊国を後にした。

影山先生には、企画から手配、引率まで、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

(参考文献: 見学場所の説明は、それぞれのパンフ

レットと先生が作成された資料を利用しました)

番所庭園・双子島

松山利夫先生と『遠野物語』の旅

国際文化学科3年 河田 かつのぶ



「遠野へ行きたい」の声

「来年のテーマは『遠野物語』でやろうか」と松山先生がおっしゃったのは、昨年9月に行った『出雲風土記』を巡る旅の帰りのバスの中だった。その言葉のとおり、今年度の先生担当の「日本の風土と文化」の中心課題は『遠野物語』になった。

100年以上前に、柳田國男が著した日本民俗学の誕生を告げる記念碑的存在といわれる『遠野物語』。その119話を、山の神、里の神、家の神などに分類しての先生の講義だった。

「この話はすべて遠野の人佐々木鏡石君より聞きたり」と始まる『遠野物語』。そこに書かれている、人間の世界と異界が繋がっているような不思議な世界の原風景を訪ねたい、という多くの声があった。そうした願いに先生が応えてくださり遠野市を含む南東北の二泊三日、22人の旅（9月11日から13日）が実現した。

『遠野物語』の地に立つ

「遠野郷は、山々に取り囲まれたる平地なり。山奥には珍しき繁華な地なり」と書かれる遠野へ2日目に行った。最初に行った遠野市立博物館は、『遠野物語』の世界をマルチスクリーンで表現していた。その背景にある民話を題材にした大画面があるのが第一展示室。雲海に包まれる遠野盆地や物語にまつわる早池峰山（はやち

ねさん）や水車小屋など風景が映し出された。

次の展示室では、明治以降の遠野を町・里・山に分けての展示で、里の神のカクラサマやゴンゲサマ、家の神のオシラサマの現物の展示や解説があった。また、木こりや猟師の暮らしの場である山の暮らしの展示があり、山の神、狼やキツネの住む異郷であることも理解できた。

『遠野物語』にはオシラサマについて以下のような話がある。——貧しい百姓には美しい娘がおり、1頭の馬を飼っていた。娘と馬が夫婦になり、父はその馬を殺し、娘は嘆き悲しむ。それを憎んだ父が斧で馬の首を切り落とすと、たちまち娘はその首に乗ったまま天に昇り去った。オシラサマというのはこのときから成った神である——。

馬と暮らしてきた遠野の農村を紹介する展示室では農具、絵馬やオシラサマなどの展示があった。オシラサマの背景について考えることができた。

とおの物語館は昔話と出あえる場で、多くの昔話の登場人物の展示を見る・覗く・回す・手にかざす・聞くなど昔話の体験をした。柳田國男が宿泊した「高善旅館」が移築復元された柳田國男展示館では、その生涯と功績を知ることができた。

かっぱ淵を見学した後、遠野ふるさと村へ向かった。この施設は、江戸後期から明治中期に建てられた農家が6軒移築され、田や畑、池、



水車小屋や炭焼き小屋もある自然豊かな山里だった。この集落の最大の曲がり家である「肝煎りの家」は、江戸末期建築で庄屋の家だ。「大工どん」の曲がり家の天井には「かまど神」が祀られていた。馬が飼われていた部屋には、大きな男性性器を持つ、天井にも届きそうなユーモアあふれるわら人形があった。

昔ながらの山里の文化や暮らしを案内したり土産を作り販売したりするのが、「まぶりと」と呼ばれる高齢者たちだという。「まぶる」は遠野弁で「守る」の意で、遠野の文化や伝統を守る人だと知った。こうした高齢者が活躍することと観光についても先生から詳しい解説があった。

遠野では、菊池さんに観光ガイドをお願いした。見学地だけでなく、自然も合わせて『遠野物語』を感じてほしいという意図が感じられた。

南三陸で震災の語り部さんに出会う

2011年の東日本大震災で大きく傷ついた宮城県南三陸を訪ねた。震災語り部の阿部さん（右の写真）と共に志津川湾に面した被災地を回り、当時の様子や震災後の暮らしと復興について話を聞いた。



阿部さんと訪れた町防災対策庁舎献花台で手を合わせた。この防災対策庁舎は1995年（平成7）、志津川町の町役場の行政庁舎の一つとして建設されたもので、海拔1.7メートル、海岸から約600メートルの地点に建っていた。地上から高さ約12メートルの屋上に避難場所があった。

15.5メートルの津波で第1と第2庁舎は流され、防災対策庁舎は骨組みと屋根などを残すだけになったという。行政庁舎で働いていた人の4割の53人が防災庁舎の屋上に避難したが、多くの方が津波に流され犠牲になったと話された。

廃校になった町立戸倉中学校へ行ったが、震

災発生時刻で止まったままの時計があった。ここは、海に近いが小高い山が体育館脇まで迫っていて、すぐに全員避難し被害が少なかったという。残念なことに、忘れ物をした生徒と迎えに行った教員が亡くなったと話された。

生死を分けたのは何だったか、命を守る事、高齢者の知恵と震災後の自分自身の生き方など、多くのことを聞き、学ぶことができた。

「今が、一番生き甲斐がある」と語る震災語り部の阿部さんの名刺の肩書は、「南三陸おもてなしスマイルガイド」だった。また、住所は、町営復興住宅1号と書かれていた。

現地で〈ひと・こと・もの〉に出会う

参加者の声——天候に恵まれ、東北の豊かで美しい山、川、田園、農家の風景に包まれながら、遠野物語を生んだ貧しい農民の生活を想い、貧しい農民に自分もなろうとしてなりきれなかった宮沢賢治の世界を感じ、藤原氏の栄華を垣間見ることができました。

旅行の中で、たくさん見聞きをしながら「学習する」、少しプレッシャーを感じながら思ったことを「発表する」、そして「温泉に入り美味しい料理で酒を飲み」、旅のあいだじゅうみなさんと楽しく「話をする」、これらがすべて含まれた、理想的な旅のかたちといえる内容だったと思います——。

旅行中にみんなが頭をひねって作った短歌の一部を紹介する。

脈々と 語りつがれし物語

遠野にそよぐ 風のやさしや

語り部の 掲げる写真の向こう

志津高校生の 笑みを見る

松山先生には、事前の学習会をはじめ、資料作成、そして3日間の解説などのご支援とご協力をいただき、実現した『遠野物語』の旅でした。おかげで、現地に行き、〈ひと・こと・もの〉に出会う旅になりました。

改めて、松山先生にお礼申し上げます。本当に、ありがとうございました。

思い出することなど

— 遠野物語の旅 —

研究生 橋本 秀明

9月11日(火)～9月13日(木)、国際文化学科3年生が企画した「松山利夫先生と行く『遠野物語』の旅」に参加した。関東に30年以上住んでいたが、東北地方は福島県会津以北は行ったことがなく、以前から行きたいと思っていたところであった。行程は次のとおり。

・9/11 宮城県 松島・瑞巖寺、南三陸

・9/12 岩手県 遠野

・9/13 同 宮沢賢治記念館、平泉中尊寺

詳細は、国際文化学科3年のクラス委員の方が記事にされるのでここではふれず、東北に行ったことで思い出したことなどを順不同で記す。

(1) 平泉中尊寺

国宝である金色堂の階段の前で、木版画家の川瀬巴水『平泉金色堂』を思い出す。川瀬巴水は「昭和の歌川広重」と称えられ日本のどこにでもある風景を木版画で600点以上残している。



平泉金色堂(旧覆堂・
昭和32年絶筆)

(2) 宮沢賢治記念館

子供向けのような気がした。薄暗く、見上げるまでの展示なので解らずじまい。売店で購入した冊子を読むと賢治は、いろんな分野に手を出していたようである。門井慶喜『銀河鉄道の父』(第158回直木賞)を読んでいたもので、岩石の標本には少し興味を。賢治の童話で好きなの

を一つあげると『注文の多い料理店』。読むたびに怖さと笑いが伴う気持ちになる。

(3) 遠野

佐々木鏡石(喜善)が語り柳田國男が著した『遠野物語』は若い頃に読んだ。当時、柳田國男の物となっているのに違和感を覚えていた。町は観光化されていて、博物館・資料館などを巡ったが、一番良かったのは「遠野ふるさと村」。映画・TVドラマのロケが多く、人と馬との共生が今も生きている。豊中市服部緑地にある「日本民家集落博物館」にも古民家が揃っているが、趣が全く異なる。

(4) バスの中で

松山先生が北上川を見て「柳あをめる北上の」を口にし、誰か頭の文句を知らないかとの質問。筆者は知っていて、即「やわらかに」と返答。石川啄木の短歌であり、高田三郎が歌曲「やわらかに」として作曲している。以前、コーラスで歌ったことがあり名曲だと思う。

やわらかに 柳あをめる 北上の
岸辺目に見ゆ 泣けとごとくに

その後、啄木に「初恋」の歌があることを伝え、先生は知らない。知っているのは島崎藤村の「初恋」とのこと。ついでに二つとも記す。啄木の「初恋」(一握の砂より)は

砂山の 砂に腹這ひ 初恋の
いたみを遠く おもい出づる日

越谷達之介による歌曲「初恋」。名曲である。藤村の「初恋」(『若菜集』一番のみ示す)は、

まだあげ初めし前髪の
リンゴのもとに見えしとき
前にさしたる花櫛の
花ある君と思ひけり

作曲 若松甲・歌手 舟木一夫で知られている。

以上思いつくまま記したが、国際文化学科3年の河田さん、毛馬さん、春日さん、田中さん、三木さんには大変お世話になりました。

<参考文献> 川瀬巴水展 生誕130年 ―郷愁の日本風景(2014年大阪高島屋にて)／宮沢賢治選抄(花巻芸術文化協会) 記念館売店で購入

神戸新開地・喜楽館を観て

研究生 木下 俊造

せめて雨だけは降らないようにと、やきもきしながら乗車し、久しぶりの神戸新開地に着くと、曇天ながら何とか持ちそうな空模様で一安心です。ランチ会場と喜楽館の下見を兼ねて散策した街並みは、懐かしい昭和の香り漂うレトロな雰囲気が満ちていました。

今年2度目の文学歴史学科9期生の同期会は、ランチ会と7月オープンの喜楽館での寄席見物でしたが、どれくらい参加があるかとの心配をよそに、卒業から5年半経過しても、ほぼ半数16名の参加があり、予定通り9月14日12時に賑やかな幕開けです。

新鮮な魚、天ぷら&肉にデザートの会食後、皆様の近況コメントをお願いしたところ、タイムオーバーになりそうなほど盛りだくさんで、年齢を感じさせない行動力や好奇心と志に感心させられた次第です。その内容は、傾聴ボランティア、絵画、オカリナ、ピアノ、各セミナーへの参加、勤務時代の経験を生かしたバイト、認知症予防を兼ねた散歩、1日1万5000歩のウォーキング、友達との旅行、より高齢の方へのお世話が多い若手老人会会長、2歳児も在籍する少年スポーツの指導、もちろん園田や他のシニアでの学習や活動等々、園田シニアOBの面目躍如というところでしょうか。

ランチ会終了後は徒歩5分の喜楽館へ。同期会での寄席見物は数年前の繁昌亭以来で、それぞれに期待を持っての入館です。館内は、姫路から団体のお客様もおられ、1階はほぼ満席で、真新しい舞台と客席は心地よく、座席もゆったりとしていて心が豊かになりました。



14時からの昼席は、7組の芸人さんが出演され、それぞれのネタをお客様に理解してもらおうとする姿に、さすがプロと思われました。

中でも印象に残ったのは、最初の月亭天使さん。天使という名前もユニークですが、しゃべりとテンポの良さは抜群で、売り出し中の貴重な女性落語家のようにです。また林家笑丸さんの後ろ向きの紙切りと楽器演奏は印象的で、NHK朝ドラ「わろてんか」での後ろ面の指導や、落語家役での出演、また他の番組で紙切りの手だけ出演されたのも、興味ある話でした。さらに若手漫才コンビのボルトボルズさんのサイエンスマジックは新鮮で、理工系出身コンビらしい明快な解説も素晴らしかったです。

その日は、静かな客席に響く着メロ音の後、お客様が携帯でしゃべりだすという、あり得ないハプニングが起きましたが、落語家さんは驚いた様子もなく、高座から「通話は外でお願いします」と呼びかけられたのにも、またプロ意識の一端を見せられたような気がしました。



終演後、出口でのお客様への丁寧な挨拶も好印象で、写真中央の天使さんには、急なお願いにも気持ちよく応えていただき、ぜひまた

来ようと思った次第です。

最後まで残った8名は近くの喫茶店で、喜楽館から参加の方を囲んでの話に花が咲いたのですが、お店の閉店時間もあって30分ほどでお開きとなり、12月の忘年会での再会を胸に帰路に就きました。それでは皆様お元気で！

田山花袋『蒲団』の 文学故地を訪ねて

— 広島県府中市上下町 —

研究生 橋本 秀明

「吉村教室」恒例の文学研修旅行である。
研修旅行の目的は、田山花袋『蒲団』の女主人公のモデルとして知られる岡田美知代の郷里「上下町」訪問である。なお見学場所の説明は、大部分先生の栞を利用させて戴いた。
行程は次のとおり。

- ・9/20(木) 岡山県 旧藩校閑谷(しずたに)学校
広島県 上下町 上下歴史資料館
上下町 芝居小屋「翁座」
(宿泊) 「湯っ蔵」
- ・9/21(金) 道の駅「さんわ 182 ステーション」
広島市 庭園と料亭「半べえ」

移動はバスである。大学のバスは、台風で栗山公園の樹木が折れバスの天井を凹めたため、同じタイプの外部の観光バスに変更された。

1. 旧藩校閑谷学校（日本遺産 特別史跡）

江戸時代前期の寛文 10 年(1670)に岡山藩主池田光政によって創建された現存する世界最古で日本初の公立学校である。資料は、創設の沿革・藩主池田光政・運営の実務で功績のあった津田永忠・教育指針や諸規則等が詳細に管理、展示されている。



右手紅葉はシンボルツリー楷(カ)の木(2本)

学芸員のレクチャーを受けた後、講堂を各自

見学。雨天のため、あちこち見て歩くことは出来なかったが、筆者は資料館の建物(入らず)まで石塀に感心しながら足を延ばした。小学生の団体が来ていて、講堂で先生によるクイズをやっていた。

一日目の昼食は、「おさふねステーション」。バイキングである。先生の栞によると我々だけがバイキングと思いきや、他のグループも同じようにバイキングを食していた。???

2. 上下町



上下町中心の街並み

「上下画廊」にて、上下団子と飲み物をいただきながら、上下歴史資料館館長森本裕子氏より天領「上下町」の歴史と「岡田美知代の後半生について」、用意された資料を見ながら大きな声でのレクチャーを受け、波乱万丈の人生を送ったとの印象を持った。町の人々から名士として知られているとのこと。その後、資料館(旧岡田邸・岡田美知代の生家)の見学。小さな町にしては、小綺麗な建物で町も大事にしているように思った。



「翁座の看板(映画実演)」

「翁座」は資料館から歩いてすぐにある。地元の旦那衆により 1925 年棟上げされた。かつては大友柳太郎・高田浩吉・鶴田浩二らが、また戦

時中には平幹二郎も公演したという。ここでも資料館館長からレクチャーを受ける。中に入ると、2000 年代の平幹二郎の写真が多く展示されていた。舞台の奈落も見学。暗くてよく見えなかったが、落ちたら大変なことに。今は個人の持ち物で、近いうちに町で管理するとのこと。

「上下画廊」には、沢山の土人形、懐かしいランプがあり、見て楽しんだ。

3. 宿泊所「湯っ蔵」

「翁座」見学後、資料館館長に見送られながら「湯っ蔵」に向かう。バスの中で上下町の人々のことを想う。車の行き来はあるけれど、歩いているのは我々だけ。どうやって生活を送っているのか。筆者は見えていない「メガネ店」があるそうだが、小さな町でどれほどの数が売れるのか。不思議な気がした。

「湯っ蔵」は、先生の葉に豪華なホテルではないとあったが、普通のホテルだと思った。ホテル内はスリッパなしで、靴下・素足で歩行。筆者は好きである。ここのお湯の熱源は薪とのことだが、殆ど臭わないし、肌にやさしい良い湯であった。食事は、山の中(?)にしては良い内容だった。食後、恒例の宴会。



光信寺山門

翌早朝、朝風呂を浴びて近くの光信寺(禅宗修練道場)の境内を一人で散策。濃い霧がかかっていて、山門が薄っすらと見え幻想的であった。山門前はただっ広い広場。山門を通ると本堂が見えるが、その前もまた大きな広場。本堂も大きく立派な建物である。本堂の裏に回ると、道場らしき堂が幾つも見え、大きなお寺であることが分かった。

4. 道の駅「さんわ 182 ステーション」

当初、地元の朝市で買物の予定。参加者が多く地元では賄いきれないとのことで、道の駅を紹介され、バスから霧を眺めながらそちらへ移動。先生も調整が大変。

道の駅には、殆ど地場産の野菜・地酒・お菓子・肉類などもあったが、魚介類がないのは何故だろうか。筆者は菊芋チップのみ購入。参加者の皆さんは安いこともあって結構野菜を購入されていた。なかには、大量購入のため、宅急便での郵送も。

5. 庭園と料亭「半べえ」

バスは、西に向かい広島市へ。

わざわざ広島の地を訪ねたこの機会に、美しい風景、佇まいと美味しいお料理をと「半べえ」の庭園一望の部屋で食事。良い企画で楽しむことができた。「半べえ」の由来は省略。

出てきたのは松花堂弁当。料理のなかで、これは何だろうと 2 点ほど仲居さんに教えを乞う。1 点、分厚い魚の切り身は？ 鰯(カレイ)。普段口にするものとは全く異なり、大型の鰯らしい。食後、庭園散策。山頂まであるようだが、途中柵がしてあり上にはいけず。少々残念。傍にある長い階段を歩き神社をも散策。

帰路、バスのなかで宴会で残った焼酎を筆者がゲット。宝塚インターでなかなか一般道に出られず、運転手さんに気の毒であった。

お土産は、「上下画廊」で購入した「洋酒ケーキ」(¥650)。美味しいケーキだった。

もう一つ、閑谷学校の売店で、岡山文庫「閑谷学校」(巖津政右衛門著、昭和 46 年発行)を購入。

岡山県は、出張で水島とついでの後楽園。広島県は、比婆山と帝釈峡。他は全く知らない。新たな知見を広めることができた。

<補足> 写真は、各種ホームページに公開されているものを張り付けた。

ミャンマー講演会が行われました

-- 国際文化研究の自主活動 --

研究生 阪田 正樹

10 月 10 日に N P O 法人神戸ミャンマー皆好会の大坪氏をお招きして、ミャンマーの紹介や歴史、会の活動を話していただきました。

私は数年前にこの N P O 法人の事を知りました。ミャンマーで 2008 年に台風があり、多くの家屋や学校が流された時に、皆好会が学校を再建したことを知り、その話を聞きたいと思い、また園田学園の国際文化学科の人たちにも聞いていただきたいと思い、2018 年春に企画しました。

神戸ミャンマー皆好会の事務所は J R 神戸にあり、毎月第 2 水曜日に定例会があるというので、連絡を取り、訪問しました。行ってみると皆さんが忙しく活動されていましたが、私の講演会の企画を真剣に聞いてくださいました。その後、ミャンマーのお菓子とミャンマーのコーヒーをいただきました。お菓子は甘いクッキーでコーヒーはコクのある深煎りでした。

講演会を開くにあたり、私の受講している国際文化研究の授業の一環としてできないかと検討しましたが、自主活動に、という指示がありました。

当日はあいにくの雨にもかかわらず 27 名の参加者がありました。

ミャンマー講演会では、講師の大坪氏が冒頭でタイムリーにアウンサンスーチーさんが来日していることを話されました。アウンサンスーチーさんは長い間ミャンマー軍政下で軟禁状態にあり、近年民主化により、ミャンマー政権の中枢にいる人です。

ミャンマーのいい所は、昭和 30 年代の日本を思い出させて、一度は行ってみたくなるような風景です。そうした風景や、現地の方との様子を、皆好会の方が撮って来られた写真を用いて紹介していただきました。また、仏塔や涅槃仏は有名です。

昔、“ビルマの堅琴”に出演した中井貴一、石坂浩二を思い出しました。

第二次世界大戦中の日本軍の無謀なインパー

ル作戦のことも話されました。

ここでミャンマーの国を紹介します。

- ・面積は日本の 1.8 倍
- ・気候は熱帯又は亜熱帯
- ・人口は 5140 万人
- ・多民族国家

(ビルマ族、シャン族、カレン族等)

- ・宗教は上座部仏教(小乗仏教) 90%
- ・経済規模は 191 ヶ国中第 72 位
- ・50 年間鎖国していたので、インフラ整備が遅れている。

次に皆好会がどのような支援をしてきたかの紹介がありました。

前に紹介した学校の再建のほか、梅酒用の梅の栽培支援、環境支援、慰霊祭の開催、友好交流ツアーのお手伝い、洪水災害時の義援金の寄贈などです。

またミャンマー語の勉強会を行っています。

これからの支援計画では、学校の先生用の寄宿舎の建設やマングローブの植林活動(CO₂対策)などがあります。

また、観光についても話されました。ベストシーズンは 11 月から 2 月。直行便は成田から。関空からは各国経由。お金は 100 円が 1000 チャット。

最後に、ミャンマー講演会を開催することができ、多くの皆さんに参加していただいたこと、そして神戸ミャンマー皆好会がミャンマーの現状、観光等の講演をしてくださったことに感謝します。

神戸の長田区二葉町にミャンマー料理の店があります。皆さん行きましょう！お誘いください。



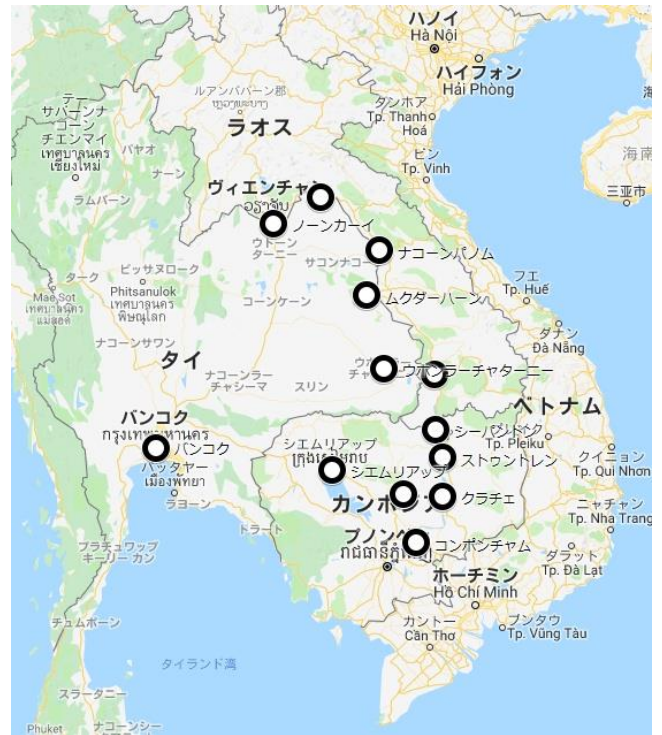
ミャンマー講演会の様子

そして私は、彼・彼女達の心情に思いを馳せる夏となりました。

メコン川を旅する

研究生 十河 和夫

行程：(タイ) バンコク→ノンカーイ→ブンカーン→ナコーンパノム→タートパノム→ムクダーハーン→ウボン・ラーチャターニー→(ラオス) パクセー→シーパンドン→(カンボジア) ストゥントレン→クラチェ→コンポンチャム→コンボントム→シェムリアップ→(タイ) バンコク



7月19日(木)

夜行列車でバンコクからノンカーイ

ゴーという音とグラグラという揺れで跳び起きる。側にあった机の下に潜り込む。震えながら様子をみていたが揺れはおさまるところか激しさを増してきた。家が倒壊するという恐怖が襲ってきたところで目が覚めた。狭い所にいるがベッドの上だ。揺れは続いているが、それは列車の振動だった。昨夜バンコクから寝台列車に乗り込んだのだ。誰の見送りもない旅立ちだったけど、深夜特急（ミッドナイトエクスプレス）に乗り込みメコンを巡る旅に意気込んでいた。列車の振動で地震の夢を見るなんて！1ヶ月前の地震の恐怖が、まだ癒えていなかったのだろうか。

車内は冬のような寒さだ。漆黒の闇の中に老人が睨んでいる。ギョッとするが窓ガラスに映った僕の顔だ。この寝台列車に乗るのも何回目



だろう。初めて乗った時は食堂車でビールを飲み馬鹿騒ぎをし

た思い出が蘇る。しかし、タイ国鉄は3年ほど前からアルコールの持ち込みを禁止した。ビールが無いなら寝るしかないと昨夜は早々と寝たのだ。

一度目覚めたら眠りは浅い。深夜の駅に列車が止まるたびに目覚める。空が明るくなる頃寝るのを諦めて、風景を眺めていた。イサーンの貧しさを象徴する赤茶けた土が泥濘んでいた。タイに来てから毎日雨に遭遇している。お百姓さんには恵みの雨だろう。が、旅人にとって嫌な雨だ。

7月21日(土)

ノンカーイ 観光

ゲストハウスのオーナーが Facebook を開いてタイにもスカイウォークがあると自慢してきた。どうだ、グランドキャニオンのスカイウォークの後にタイのスカイウォークを紹介しているだろう。行きたくないか。妄想



が走る。ガラスの道をこわごわ進む、ふと下を見ると奈落の底。恐怖に慄いた隣の人に、きゃあーーーーと抱きしめてこられたら、ウフフフ…、まあその時はその時のことだ。

しかし、しかしだ。オーナーに連れてこられたスカイウォークのあまりのチープさにのけぞりそうになった。スカイウォークには違いないが渡るのに5秒もかからない小ささだ。思わず木戸銭利子つけて返してもらおうじゃないか！と叫んだ。が、無料でっせというつつこみが返ってきた。

しかし、スカイウォークが貧弱でも、ここからの眺望の良さは抜群だった。崖下に広がるメコン川はラオスの土を削り、タイの土を削って流れる泥の川だ。ゆったりと流れてきた川は三角形の中洲にぶつかるのと二つに分かれ、島を舐めるように包み込んでゆく。対岸のラオスは深林に覆われて人家は見えない。静寂だけが漂っていた。



7月23日(月)

ブートック観光

ブートックは岩山（高さ約200m）を利用して作られたトンデモ寺院だ。この岩山に僧たちは岩を削って階段を作り、崖を穿いて棚道を作り崖に棧を掛けて棧道を作り木の階段をつけて寺院を建設した。頂上に行くルートは7つの段階に分かれていて、どのルートから行っても螺旋

状に造られた人工の階段で6段目まで行きつく。7段目からは階段もなく、木の根を掴ん



での杣道をよじ登るしかないらしい。というのも、ガイドが頂上を諦め6段目から引き返したからだ。雨は止んだとはいえ、道は泥濘んでいる。行くとしたら命懸けとなるという判断だ。ホテルに帰って案内書を改めて見ると、木の階段は専門家の手を借りず、1969年から5年がかりで同寺の僧侶たちの手で工事をしたと書いてある。道理で木道の造りが雑だった訳だ。強度計算など雑にしかしていないだろうから、いつ犠牲者が出てもおかしくない場所だ。これも、信仰の一つか。

夜はメコンビューのレストランで食す。対岸はラオスのパークサン。このイミグレ（入国管理）は外国人にも解放されている。辺境国境マニアの聖地でもある。日帰りで行ってみようかと考えたが、タイの再入国が年2回と制限されてからはそれもできなくなった。

7月29日(日)

パクセーからシーパンドン

30分遅れでオンゴロバスがやって来た。乗客はファラン（西洋人）ばかりで日本人は僕一人だった。3時間ほど走り、舟に乗り換えコーン島を目指す。雨の日が続いたせいかメコン川は増水していた。ロングテールボートからの眺めは目線が低いので、周りが雄大に見える。島には大木が茂り川面を覆っている。椰子の木が高く育っている。水があり、太陽が照りつける地に、植物はいくらでも育つのだろう。

昨年宿泊したホテルに到着。橋の風景がまるで違う。橋げたの下の方を流れていた川が、今は橋の上部まで増水している。早速、ホテルの食堂でビールを飲む。昨年感動した橋を見渡しながらなのだが、昨年ほど感動はしない。当たり前田のクラッカーだ。なんでも二番煎じは味が落ちる。



7月30日(月)

シーパンドン観光

朝から雨が降り続いていたが10時ごろ小降りになったので島をサイクリングする。メコンが運ぶ泥で出来た島は肥沃で稲作に向いている。田植えをするシーンをよく見かけた。何組かが手で植え付けている。昔の日本の風景を見ているようだ。途中で、デット島のゲストハウスからこちらのコーン島まで歩いて観光している韓国女性3名と出会う。1時間はかかる距離だ。元気ですねと僕が言うと、これからピー（精霊）が潜むリーピー滝に行くのよと答えた。さらに1時間はかかる距離だ。往復4時間も歩くの？ビックリした素振りを見せると、ウフフと笑いながらまるで天女のように軽やかに去って行った。



7月31日(火)

(ラオス)シーパンドンから

(カンボジア)ストゥントレン

ゴーと音を立てて流れるメコン川の響きで目が覚めた。6時前だった。空は白み始めていた。屋外に出るとホテルの庭スレスレの所まで水嵩が増していて土嚢を積んでいる。あと



少しでも水量が増せば水没する。メコンに住む人達は、時々水没する被害に遭いながらも住み続けてきた。メコンは神だと思った。神は人を護ると同時に人に祟る。福と災いをもたらすのが神だ。

出発前に橋を歩く。村を眺めると、泥道の奥

に托鉢の僧が泥水の道を歩いていた。東南アジアはどこに行っても托鉢が朝の始まりだ。そして、どんな小さな村にも托鉢僧がいる。そんな風景を僕は愛してきた。

カンボジアに向かう観光客は、イタリア人らしいカップル、親子連れのフランス人3名、ヨーロッパ人らしい女性1名、中国人1名だった。

タイのイミグレで100バーツ取られ、カンボジアのイミグレで2ドル取られた。全く、何の金だと言いたくなる。ここのタイ・カンボジアの両イミグレでフィリピン？と聞かれた。この顔がフィリピーナに見えるか！この国境で何があったのだ？

カンボジアに入国して田舎に来たと感じた。イミグレーションは立派だが、そこから一步出ると、鄙びた田舎駅だった。バスターミナルの広場には洗濯物が干されていて庶民的なイミグレ前食堂だ。



このルートは地球の歩き方にも記載されていない辺境国境越えだが、安全でバスも快適だ。カンボジア旅行を考えている人、有料でそっと教えます（嘘です、誰でも無料です）。

メコンはこの街に来て川幅も広がっていた。タイとラオスの国境沿いの町のメコンより何倍も川幅が広がっている。

8月4日(土)

コンボンチャム

コンボンチャムでは高級ホテルに宿泊した。

ここまでゲストハウスで我慢してきた疲れがどっとでてきていたのだ。



年寄りバックパッカーは無理しないを座右の銘にしている僕だ。町一番のホテルのメコンに面している5Fの部屋を確保した。壁一面がワイドなガラス張りでメコンが一望できる。此処まで下って来たメコンの川幅がとてつもなく広くなっていた。島も水没しているのだ。窓から見える全てがメコンだ。

夜は疲れと孤独をパーと吹き払うつもりでホテルのスカイバーに行く。ガラガラだった。広いスペースに中国人の家族1組が陣取っていた。バーに came という感じではなくファミリーレストランで食事する、それもそれぞれがスマホを見ての孤食だ。歌手が一生懸命歌っているが、全員無関心でスマホをいじっている。歌手が可哀想になってきた。

深夜、2時ごろ目が覚めて外を眺めると、メコンの上に月が照っていた。幻想的な風景だ。雲がずっと空を覆っていたが、この瞬間だけ雲の切れ目から満月が覗いたのだ。メコンに月明かりが反射している。川の神（ドラゴン）が立ち上がってきそうな雰囲気だ。

8月6日(月)

コンポントムからシェムリアップ

朝、6時に散策に出かける。一年前のことが頭によぎる。あの時は何を考えていたのだろうか？この街のどこを見ていたのだろうか？自転車で走っているといろいろなことが思い出されて来る。しかし、何を考えていたのかは忘れてしまった。旅とは一期一会だ。昔のことを考えるのは野暮だ。

コンポントムからシェムリアップのバス旅は



快適だった。大型バスで乗客も少なくラクラクと座れた。こんなことは珍しい事だ。2時間30分で到着。

8月7日(火)

シェムリアップ観光

シェムリアップは世界的な観光地だ。レストラン、バー、両替屋、ホテルどれをとっても多くの店が

並んでいる。椅子に寝転べるビアバーに入る。何と！ドラフトビアが



0.5ドルで飲めるのだ。しばらく飲んでいたらすごいスコールがやってきた。観光客が店の軒先に駆け込んで雨宿りをする。見ているとビアバーの前でトゥクトゥクの運転手がカップを着て客待ちをしている。カップをかぶっていても中は汗でびしょ濡れだろう。それを我慢しながら客待ちをしている。つくづく大変な仕事だと思う。

日本も僕の子供時代は貧乏だった。仕事は辛くて厳しいのが当たり前だった。しかし、今や日本は金持ちになってしまった。しかも、この国ではドルで支払うごとに日本では味わえない金持ち気分が味わえる。金持ち気分は傲慢を産む。自慢できることでは無いが、現実がそうさせているのだ。僕はビールをぐくりと飲んだ。傲慢を飲み込むために…。

僕の旅ももうすぐ終わりだ。今回も色々な人との出会いがあった。が、それもすぐ忘れるだろう。出会いとは、違う方向から来た放物線が接して去って行くと思えばいいのだ。全く知らない者が会おう、接しているときは密着しているが、一度離れるともう会えることはない。永遠に遠ざかって行くだけだ。もう戻っては来ない。

ジョージア（グルジア）訪問合唱団に随行して

研究生 ^{たわだ} 峠田 桂子

台風で2日遅れの10月2日深夜に出国、9日夕刻に帰国した。目的は、ジョージア国国際音楽祭『秋のトビリシ』に共演する神戸21世紀混声合唱団（弟が団員）の応援とジョージア国を知りたく、姪の娘の咲良と随行した。

10月3日（火） ドバイ経由でトビリシのホテルへ15時過ぎ到着後、市内のレストランで国立トビリシ交響楽団マエストロからの歓迎晩餐会があり、指揮者、ピアニスト、合唱でのソリストの方々と参加した。ドイツ語、英語、グルジア語、日本語が飛び交う楽しい話題にワインのボトルも空いていった。

10月4日（木） 私と咲良は、両替をして市内に繰り出しを決めた。さあ冒険の始まり。近くにあるはずの地下鉄サドグリス・モエダニ駅に向かう。運賃表はなく、切符の買い方がわからない。改札補助をする中年の女性に、地下鉄の切符を買いたい旨を告げるも、グルジア語で理解出来ず。困った女性は、Police と書かれた構内のOffice に私たちを案内した。

警官に繰り返し尋ねると、丁寧に教えてくれ、料金をチャージしたカードを使うことを理解した。エスカレーターでホームへ。何と長く深いこと、先が見えない。やっと降りたところに、一枚の最終行き先案内表示だけ。間違えない様に掲示板を読み車両に乗り込む。

車内に広告はない。次の駅の表示板はないので、アナウンスに集中する。何しろグルジア語が難しくて容易に読めないし聞き取れない。予め地図で調べておいた3番目の駅で下車。目的の国立博物館のある方向がわからない。私の地図や咲良のスマホで調べるがわからない。あっ、警官が4人いた。聞くべし。行き方と場所を教えてくれた。

Underground Passage を通り、博物館に到着。入場券売り場の職員に釣銭を出すのを否定されたが、咲良は釣銭のあるのを見て入場券を購入した。ジョージアで出土した黄金製品や歴史資料や民族資料、ソ連によるジョージア占領で被

った被害の歴史等の展示がされていた。建物は比較的新しい建物で、大通りに面していて、向かいには国会議事堂、並んで、昔からあるという大きな建物、小、中学校があり、下校時なのか迎えの大人達、バスの乗車を待つ人、車で迎えに来る人等を見た。

遅いランチの店で若者が、咲良に「もしや、あなたは、日本からきたのですか？」と聞いてきた。「そうです。神戸からです。ご存知ですか？」等の会話が合った。

深い地下鉄に乗車し、危ない道路を渡りホテルに戻った後、重厚な装飾の小ホールへ。

演奏会では、よい音色に魅了された。矢野正浩氏のフルートでは、日本の尺八のような曲も演奏され、興味を持たれたのではないだろうか。井上ともこ氏のピアノ演奏は世界中に知られた曲で、現地の人々は楽しく聴かれたと思う。夕食のレストランでは、日本語を少し話す女店員さんがいて大いに安心して楽しんだ。

10月5日（金） 弟、咲良、私の3人は地下鉄で、出かけた。市内の中心には町を二分するムドックヴァリ川が流れている。その川にかかる平和橋を渡り、市内のジョージア正教会の総本山ツミンダ・サメバ大聖堂へ行った。町のどこからも見える巨大な教会は、広大な空間と大理石の床で荘厳な雰囲気であった。



平和の橋

ロシア語がよく聞こえるフリーマーケットを通り、町中を探索した。観光客が多かった。この近辺の国々の人々が多く、この日は東洋人には会わなかった。

弟は 19 時 30 分から本番で、私たちは演奏会のためのフォーマルな装いで、歩いてカヒッゼ音楽センターに向かった。大ホール玄関前には、演奏曲目・出演者の紹介ポスター（写真）が立てかけてあった。



演奏会曲目：B. バルトーク ヴィオラ協奏曲
F. メンデルスゾーン 交響曲第 2 番 「讃歌」
序曲「フィンガルの洞窟」

出演者：国立トビリシ交響楽団

合唱：国立トビリシ合唱団/神戸 21 世紀混声合唱団

指揮：矢野正浩、

ヴィオラ：ザザ・ゴグア

ソプラノ：Mariam Kobaliani、松原みなみ

テノール：松原友

私たちには特別招待で数席が用意されていて、響きのよい高く広い天井は気持ちよく鑑賞出来た。スタンディング・オベーションがあるほどよい演奏で、トビリシに来てよかったと思った。



カヒッゼ音楽センター 大ホール

演奏後音楽ホール内で、トビリシ交響楽団の招待パーティがあった。ワインと共に歓談があり、それぞれの国の民謡や童謡の交換を楽しみ、総監督や、市の関係者にお礼を申し上げた。

10 月 6 日（土） 11 時頃からザザ・ゴグア夫妻たちの案内で文化的施設があるメイン通りや、かつて勉強された音楽大学等の市内観光。

旧市街地に温泉街がある。表側は煉瓦でおおわれドーム型をしていて、中は個室で湯船もあるそうだ。温泉の上の方に滝があり、川の流れに続いていた。その背後のナリカラ要塞から、

市内中心が一望できる。ジョージアの人々が大切に思っている「ジョージアの母像」がくっきり見える。

夕食は市内にあるザザ・ゴグア夫妻のお宅に招待された。グルジアの料理とワイン、炭酸系レモン等の飲み物等私に合うものだった。

日が暮れ暖炉が燃やされると、遠くに座っていても暖かさが伝わってきた。

10 月 7 日（日） 市内のワインの老舗に案内していただき、ワインマスターから提供される何種かをテイスティングをしながらジョージアのワインの歴史講義を聴き、お好みのワインを購入。その後郊外の観光をし、ザザ・ゴグア夫妻の別荘を訪問した。

別荘の周りは梅や胡桃、ブドウ等季節の果物が植えられていた。3 階のバルコニーに案内されたが、時には遠くコーカサスの山々が見えるという。広々とした土地に村人の家が、眼下に広がっていた。

夕食はゴグア氏ご両親も一緒に、先ずワインで歓迎と演奏会のお礼の乾杯。「今夜は、グルジア式パーティをお教えしましょう」とのこと。乾杯で大切なのは 4 つの感謝で、1. パートナーに、2. 家族に、3. 友達に、4. ジョージアの母（丘の上の像、ジョージアを見守っている）に。パーティ中には乾杯が何度もあった。別荘からホテルまでご子息が送ってくださった。

10 月 8 日（月） 15 時 30 分トビリシを飛び立ち 18 時 45 分ドバイ着。待ち時間に免税店の案内パンフレットを配る若い従業員が、私たち家族の話の輪に加わってきた。福島へボランティアで行ったこと、アニメが好き、コスプレをする、日本のボーイフレンドを持ちたいので紹介してほしいとあって、自分の携帯の日本人タレントの写真を見せた。日本にも同じような若者がいると思った。

10 月 9 日（火） 18 時頃関空に到着して、22 時に帰宅。振り返り、両替のオジサンが「広島、アメリカ、だめ」といった言葉を咲良に伝えていたが、「平和の橋」が町の中心の川に建設されていたことや、乾杯で何度も感謝の言葉を表していることなど、ジョージア国の人々は平和を願っていること。音楽人は音楽を通して深く友情を築いていることが印象的であった。

誇り高き 満洲旗人 チーバオ 満洲旗人だけに着ることを許された旗袍

国際文化学科2年 木田 信正



正黄旗



鑲黄旗

「満洲族」社会の組織文化である「満洲八旗」とは、元々建州女真族の生活の生業となす巻き狩りと戦いの方法で、黄旗・白旗・紅旗・藍旗からなり、左のように、それぞれ無地(正／四角形の旗)と縁取り(鑲／五角形の旗)の八旗あります。高

みに部族の長が黄旗を立て、藍旗が獲物を追い、紅旗と白旗が次第に包囲の輪を縮め、とどめを刺すのは黄旗の建州女真族の勇者でした。それぞれの色には意味があり黄色は大地、白色は雪、紅色は太陽と月の光、藍色は天空を表して、それぞれの「正」は昼を、「鑲」は夜をあらわします。(参考写真1)

選挙制により部族長は決められますが、基本的には対等です。とはいえ部族柄での序列があり、トップは「愛新覚羅(アイシンギロ)氏」で「正鑲黄旗」となります。「正鑲黄旗」に続く「正鑲白旗」は「グアルジア氏」が有名で、「愛新覚羅氏」とは血縁関係があり、ラストエンペラー「愛新覚羅溥儀」の皇后「婉容」も「正白旗」の出身です。「正鑲黄旗」より皇帝が、「正鑲白旗」より皇后が選ばれるという構図になっていたものと思われます。

建州女真族と明連合軍の天下分け目のサルフの戦いで建州女真族に敗れた、海西女真族や野人女真族が降伏し、「満洲八旗」の最下部の「藍旗」に組み入れられました。「黄旗」・「白旗」と区別化されたのでしょう。

一つの挿話(作り話)があります。サルフの戦いに敗れた、海西女真族や野人女真族の全ての部族長は「愛新覚羅ヌルハチ・ハーン」に恭順したのですが、ただ一人の部族長が最後まで

抵抗しました。「ヌルハチ・ハーン」はその部族長の首と引き換えに、その部族を「満洲八旗鑲藍旗」に組み入れました。斬首される間に、その部族長は「我が部族を残したのは大きな間違いよ! 我が首は落ちようと、我が部族子々孫々の女が愛新覚羅を滅ぼす!」と言い残したとの言い伝えがあります。その部族が「イエハナラ氏」で、「西太后」が「イエハナラ氏」です。

満洲八旗の中で一番位の低い「鑲藍旗」の「西太后」は皇后にはなれません。当時の皇后は「正白旗」の「東太后」です。

「東太后」に男の子が生まれなかったので「西太后」が太后の座に就いたと言われています。一説では「西太后」が「東太后」を毒殺したともささやかれています。「東太后」だけでなく、他の側室、夫である第九代「咸豊帝」、実子である第十代「同治帝」、更には甥である第十一代「光緒帝」をも毒殺したと、前代未聞の悪女にされたのも、前述の「イエハナラ氏」の部族長の呪いが的中したからでしょうか?確かにラストエンペラー「愛新覚羅溥儀」は「西太后」の没後三年余りで廃帝となり、「大清国」は滅びてしまいます。「西太后」が滅ぼしたという見方もできるかもしれません。

これから記述する彼女、もちろん「西太后」のことではありません。世が世なら「大清国」の皇后にもなれる「正白旗」のアイデンティテ



正藍旗



鑲藍旗



正白旗



鑲白旗

ィを今でも誇りに思い、力強く生きている、元満洲旗人の女性についての話を聞いてください。その前にキーワードとなる2点を紹介しておきます。

旗袍(チーパオ)とは キーワード1

ご存知かと思いますが、旗袍(チーパオ)とは漢民族の民族衣装ではありません。旗袍(チーパオ)は「満洲旗人の服」という意味で、清朝時代には満洲旗人だけに着ることの許された服です。服の襟が立っているのは風除けの為で、スリットが入っているのは馬に乗る為です。その下にはズボンを履いてます。私の勝手な解釈ですが、馬に乗るは、中国語でチーマーと言い、駆けるはパオと発音します。旗袍(チーパオ)



とチーパオ(馬に乗って駆ける)をかけているような気がします。男も女も全く同形のものを着ます。満洲旗人のアイデンティティを表した満洲民族衣装です。(参考写真2)

現在の満洲民族 キーワード2

辛亥革命後、満洲族は虐待を受け解体され、満洲族のアイデンティティとエスニシティを失い、満洲語を話す人はほとんどいません。そういう意味では、満洲族は、言語的・文化的にも完全に中国化された、失われつつある先住民族です。

ただし政府の少数民族優遇政策により、従来の満洲民族が漢民族籍から満洲民族籍に戻した為に、満洲族が増え、現在では約一千万人の満洲民族のうち遼寧省に半分の約五百万人が住み、その他は各地に散らばっています。

もともと満洲は中国とロシアの中間、モンゴルの東側、朝鮮半島の北側にありましたが、辛亥革命以降文化大革命までに、完全に中国により地図から抹消された民族国家です。モンゴル族・チベット族・回族・新疆ウイグル族・壮族は自決権を持ちませんが自治区として存在していますし、朝鮮族は自治州があります。しかし満洲族は自治県が遼寧省に六ヶ所、吉林省に一ヶ所、河北省に四ヶ所のみに実在しています。壮族自治区の約千六百万人に次ぐ民族人口でありながら、自治区も自治州としても存在していないのです。失われつつある先住民族です。

誇り高き満洲旗人の服が旗袍(チーパオ)

2004年7月17日、同年5月4日に営業開始したT貿易(大連保税區)有限公司の開所式が始まる1時間前に、T貿易有限公司の親会社であり、出資会社である日本T実業株式会社のM社長に、大連日航ホテルの一室にある開所式準備室に呼ばれ、「木田、カラオケクラブの小姐(シャオジエ)やコンパニオンじゃあるまいし、関(グアン)のあのカッコはどういうことや!俺の面子が丸潰れや!着替えさせろ!」と怒りを買ってしまった。確かに、M社長が大連に到着した日に事前打ち合わせがあり、開所式当日の服装についてまでも、細かな指示があり、男性は紺のスーツ、女性も地味な色のワンピースかスーツを着用することと言っていました。その時は適当に聞いていました。

関さん(当時24歳)が着てきたのは、茶色と淡い黄色の縦ストライプで、スリットが入った、旗袍でした。私は関さんをまだゲストが来っていない会場に呼び、「関さん、チャイナドレスはアカン! M社長がカンカンや。着替えてくれるか」と伝えた時の、関さんの怒りを再現します。

——太過分!(何様のつもりだ!)これだから日本人は文明(中国人は文化という言葉より文明と言う表現をします)がない!木田総経理これはチャイナドレスではありません。この衣装は旗袍(チーパオ)といい、「満洲旗人の服」という意味で、清朝時代には満洲旗人だけが着るこ

との許された服です。

私の父も母も遼寧省鳳城満洲自治県出身の歴とした満洲民族です。今は「関(グアン)」姓を名乗っているが、元を正せば満洲旗人「正白旗グアルジア氏」で由緒正しく、誇り高き満洲旗人です。

「愛新覚羅」とは血縁関係が濃く、「ヌルハチ」の第十五子「ドルゴン」(皇帝の弟)と同じ「正白旗」で、「愛新覚羅溥儀」の皇后「婉容」も「正白旗」の出身です。「正鑲黄旗」より皇帝が、「正鑲白旗」より皇后が選ばれる。世が世なら、皇后になってもおかしくない満洲旗人が「正白旗グアルジア氏」です。満洲旗人の最下部「鑲藍旗」出身の「西太后」よりもずーっと位は上です。

しかも今日着てきた「旗袍」は金の意味をもつ「愛新覚羅」の、茶色と黄色を基調とした「旗袍」で、満洲旗人の私にとってはこの上のない正式な礼服です。着替える気は一切ありません——と怒り心頭で、興奮していました。

満洲民族のエスニシティを持っている

現在、満洲語を話せる人は殆どいません(新疆ウイグル「伊利(イリ)」に住む「シボ族」は今でも満洲語を使っているようです)。満洲民族は、言語的にも文化的にも中国化され、失われつつある先住民族です。しかし固有文化を失いながらも、満洲旗人の誇り、満洲旗人であるアイデンティティ、そして満洲民族のエスニシティを強く持っています。

満洲民族の大学進学率は漢族の約十倍以上と高く、非識字・半非識字の割合は漢族の約十五分の一と低いという数字が表すように、満洲民族の教育水準はかなり高いのです。中国語の標準語は北京語だと、殆どの日本人は思っておられますが、北京語は方言です。本当の標準語は黒竜江省ハルピンで話されている中国語です。すなわち満洲民族が話す中国語が標準語です。その証拠に、英文で中国語をマンダリンと言います。これは「満大人(マンダレン)」満洲旗人が話す中国語と言う意味です。失われつつある

先住民族「満洲民族」恐るべしです。

互いの文化を尊重する

関さんの怒り心頭に、私はたじたじでどうして良いのかわかりません。そればかりか開所式のメインである総経理挨拶(中文・日本文)を前々から考えていた私は頭が真っ白になりました。そこで開き直り、関さんにはその「旗袍」のまま参加させ、挨拶では「旗袍」の話を持ち出し、「日本人の木田、セツ君漢民族、関さん満洲民族の三人(開業時は木田、セツ君男性2名と関さん女性一名でスタートしました)、日満漢三族協和の精神で力を合わせ、それぞれの文明(文化)を尊重し、ここ中国大連で認めてもらえる会社にしたい」と、原稿なしで、大風呂敷を広げて挨拶をしました。

結果、ゲストである日本人と中国人より拍手喝采を受け、事なきを得ました。横目で関さんを見ると小さくガッツポーズをとったかのように見え、真正面の貴賓席のM社長はバツの悪そうな顔をしていました。



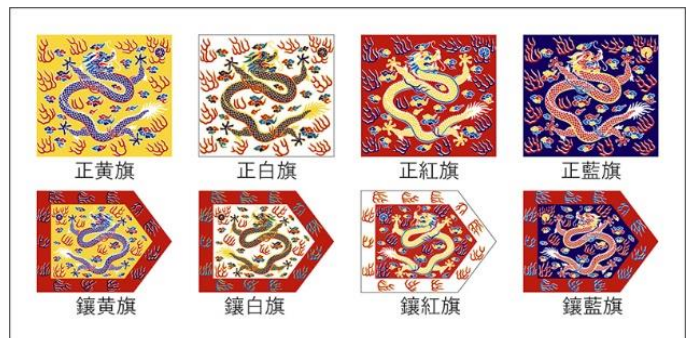
正紅旗



鑲紅旗

資料

参考写真1 満洲八旗



<https://ameblo.jp/worldhistory-univ/entry-12382720935.html>;

参考写真2 満洲民族衣装

http://www.geocities.jp/ramopcommand/_geo_contents_/090823/Manchukuo00E.html;

時友村「諸事留控帳」にみる 江戸の世相と暮らし

文学歴史学科1年 藤原 多計治

1. はじめに

古文書の読み方を学習している。学習教材として「諸事留控帳 時友村」と題した古文書があり、江戸時代幕末の庶民生活が記してある。ここではその世相と暮らしを紹介する。

時友村は摂津国武庫郡にあり、武庫地区の大字で現在の尼崎市域北西部に位置する。村高は、慶長十年摂津国絵図で269石、天保郷帳では308石、農民は天明九年で家数40、人数233人の規模である。

「諸事留控帳」は、村方文書のひとつである。名主・庄屋が、領主からの触書、廻状を書き留めたもので、また村からの題署や村内諸事も記しており、村落の政治的動きを知ることが出来る。また、婦人の起居動作、礼儀作法、教養を高める内容でもある。

2. これもダメ！！質素に！！

村人男女の衣服、身の廻りについて町役人より相触、相達がなされており、基本は一同質素を相守ることである。

具体例として、寺社参詣あるいは、旅行に行った場合でも分限に不相応の着類に気をつけること。町人男女の分限では絹紬以上は着用しないこと。

この考えにより分限に応じた着用すべきこと。勿論、たとえあり合せの古物にても、織物、ビロード、繻子、縮緬の類は、髪くくり、裾よけ、襟袖口等の小切れでも用いてはならない。そして婦人は、裾をまくり歩くことはいけない。

これまで追々触達しているので、銘々熟読し心得ること。取違いないように町役人より厚く申しつけること。もし心得違いする者がいて、廻りの役人が見つければ、当人は勿論、町役人までも厳しく沙汰に及ぶことを町々に申しおくべきこと。

また婦人は、前垂れを掛けて往来することは

よろしくない風俗である。そして御制禁の髪結いは紛らわしいので今後やめること。

毎年七月千日参り、墓廻りなど唱え群れ参る者は、鉦太鼓を携えないこと、そして遊興に紛らわしくなく、かつ右に打交じり夜中婦人の参詣はしないこと。

婦人に対しては、厳しく律していることが記されている。

3. 姫君の誕生

「この度公儀において姫君様が誕生されました。名前は僚姫様と称するので、これにより右御同名の者は名前を改めるように心得ること」とされ姫様と同じ名前は、許されなかった。

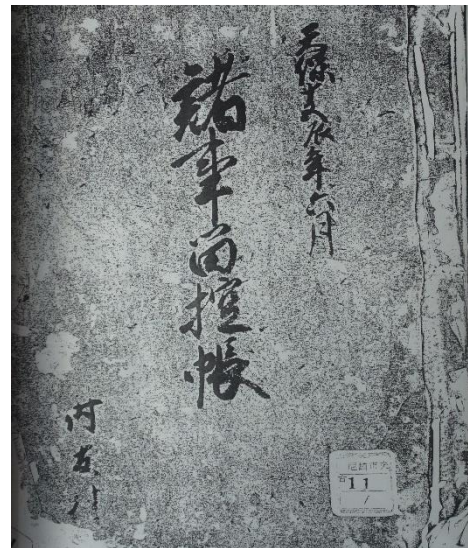


写真 諸事留控帳表紙

4. 庄屋からの願い

村行政の文章として庄屋交代の願いがある。

「当村、庄屋弥兵次は年来御役を勤めてきましたが、今般急病となりその跡に倅の喜久次郎を庄屋見習いにして頂きたい。その後庄屋役を喜久次郎に仰せ付けてください。この御願いをお聞き頂きたく村方一同お願い致します」

この文章は、時友村惣代頭百姓・善右衛門、同村同断・仙之介、同村同断・嘉兵衛、同村年寄・弥右衛門から郡代に提出されている。

中国 九江市への旅

～奈良県大和高田市「九江会」の親善旅行に同行して～

文学歴史学科3年 服部 年隆

10月17日（水）から7泊8日の日程で中国九江市に行ってきました。

参加させていただいた「九江会」の皆さんは、30年ほど前から「九江学院」の日本語学科に日本語教師を派遣したり、両市の子供さんの相互訪問を始め多くの人的交流で相互の親善を深めておられます。今回は私の友人（以前、日本語教師として活躍していた）から同行の誘いがあったので仲間入りさせていただきました。

九江市は江西省にあり北に「長江（揚子江）」が流れており、南には世界遺産「廬山」がそびえており、有名な「三國志」の舞台であることをはじめとして詩人陶淵明の故郷としても有名で2200年余りの歴史を刻む都市であります。

また、長江を利用しての水上交通の要衝として発展して来ており、最近では市街区が手狭になってきたので、現在副都心を建設中であり、数多くの高層ビルが建設されており、市役所など一部はすでに移ってありました。

我々一行は10月17日（水）、関西空港から中国南方航空で武漢空港へ行き、地下鉄で高速鉄道武漢駅に向かい食事の後、高速鉄道で九江に行きました。九江では4泊5日でおおよそ次のような活動をしましたが、九江市の外事課副課長の千紅さんの案内と専用車の手配でスムーズに動くことが出来ました。

1. 「九江学院」訪問と学生との懇談

現在、大学の日本語学科に日本人教師が不在であるので、「何かお手伝いが出来ないか」という提案を責任者と先生方にしました。その後の懇親会の席でも話し合いましたが、こちらの要望と先方の要望には開きがあるようでした。

また、学院側が「最近の学生は日本人と直接話をする事が少ない」とのことだったので、

我々と学生の懇談の場を設定してくれました。

日本語学科の学生さんはなかなか日本語が上手で、楽しく懇談をすることが出来ました。よく出来る学生を選んだのと思いますが。

2. 世界遺産「廬山」観光

廬山は急激な地殻変動で断層面が突き出し形成された山で険しい岩場や崖が随所に見られ、それらを見学する散策路が設けられており、我々も千紅さんの案内で頂上部を観光した後、標高1100m付近にある高所の町で昼食としました。午後からは、大勢の観光客と一緒に中国共産党の「廬山会議」が行われた旧址（廬山人民大劇院）を見学し、会議の配席の模型を見ました。また、蒋介石と宋美齡の別荘も公開されており見学しました。



世界遺産「廬山」



道教寺院



廬山会議会場模型

3. 東林寺、西林寺の見学

廬山の西北麓にある東林寺は浄土教発祥の寺で、僧鑑真も日本に渡る前にこの寺を訪れています。また、山門前の虎溪橋は陶淵明の有名なエピソード「虎溪三笑」の場となった古跡です。

近くにある西林寺の七重の塔は唐代創建で宋代の詩人蘇東坡の詩にも詠われています。塔は

少し傾いており中国の斜塔と呼ばれているそうです。



東林寺



西林寺の塔



西林寺

4. 中華賢母館、陶淵明記念館の見学

中華賢母館は大きな敷地にある新しい立派な建物で、母親の教育で立派な人間が育つというプロパガンダが行われており、次の四人の母親が如何に子供を育てたかが紹介されていました。

- ・儒家「孟子」の母親
- ・詩人「陶淵明」の母親
- ・北宋の名臣「欧陽修」の母親
- ・南宋の名将「岳飛」の母親



陶淵明記念館

中華賢母館（上の写真）のほど近い場所に日本でも有名な陶淵明の記念館があり、学芸員から詳しい説明を受けました。

5. 宿泊したホテル近くの散策

ホテルが長江（揚子江）のすぐそばにあったので、毎朝食後に堤防の散策路を歩きましたが早朝から魚釣りをしている方が多数いました。

また、ホテルから歩いて 10 分ほどの場所に甘棠湖があり湖の周りはプラタナスの大木の並木道になっており、大勢の市民が散歩や太極拳等を楽しんでいました。観光名所である三國志の武将「周瑜」の活躍で有名な「煙水亭」が散歩コースにあったので訪れましたが、改装中で中へ入ることが出来ませんでした。



長江の釣り人



煙水亭

九江市での一連の活動を終えた後、安徽省の黄山市に高速鉄道で移動して 2 泊 3 日で世界遺産の黄山、世界遺産の宏村・西遞村を見学後、ホテル近くの屯溪の古い街並みの見学と買い物をしました。そのあと、武漢に行き市内を観光して、24 日に中国南方航空の直行便で関西空港に帰ってきました。

最後に、都市、道路網、鉄道網がどんどん発展していること、街中の道路をボランティアが清掃することで街がきれいになっていること、「老敬 老尊」のスローガンのもと電車・バスでお年寄りに席を譲る若者がいること、横断歩道の信号が増えて交通マナーが向上していることなど中国の良い面が目につく旅になりました。

また、博物館、世界遺産等の施設への入場料が 70 歳以上は無料になっており、パスポートで本人確認と年齢確認が入りますが外国人にも適用されましたので我々にとっては費用の面で大変助かりました。

高速鉄道、地下鉄を移動手段に利用しましたが、手荷物検査が必ずあり、高速鉄道のチケットにはパスポート番号と氏名が印字されており改札口でパスポートによるチェックを受けました。

九江市以外の行動は現地旅行社の日本語のできるガイドを利用しましたが、最近日本からの旅行者が少なくなっているかと嘆いていました。実際に我々も世界遺産を 3 カ所訪問しましたが日本人観光客に出会いませんでした。

関西空港と武漢の間には毎週水曜日に直行便が運航されており、武漢からは高速鉄道網がしっかりあり、九江市の「廬山」、黄山市の「黄山」「宏村・西遞村」と三つの世界遺産を巡ることが出来るので、日本からの観光客が増加することを期待しておられました。

「ツバメのねぐら入り」

けやき遊歩クラブ第50回例会

研究生 中村米三郎

1. 集合

けやき遊歩クラブは、8月10日、第50回例会「ツバメのねぐら入り」を行い、43名の方が参加されました。

16時50分、近鉄奈良線大和西大寺駅北出口に集合して頂きました。ただ、この場所は手狭で暑く、改札口の向かい側にあるショッピングセンターは涼しいので、幹事の配慮で集合された方々を、ショッピングセンターに誘導して頂き、結果ここが集合場所になりました。

2. 納涼会

皆さんが揃われたので、5～6分ほどの所にある納涼会会場「PaoRoots（パオルーツ）」に向かいます。ここは、大きなテーブルが並んで設置しており、そこに大皿に盛った料理が並んでいます。皆さんには、それぞれ好きな場所に座って頂きましたが、テーブルを囲んでいるので、皆さんの会話は弾んでいました。



この店は、我々以外のお客さんは2名だけなので、まるで貸切状態になっています。

遊歩クラブから提供したビールまたは烏龍茶で、取り敢えず乾杯。そして、食事になりますが、お互いの席がかなり接近しているので、よくコミュニケーションが図れたと思います。

18時を過ぎ外は陽もかげり、殆ど暑さもなくなってきたので、納涼会を切り上げ「ツバメのねぐら入り」の場所、平城宮跡に向かいます。

3. 「ツバメのねぐら入り」見学

5分ほど歩くと平城宮跡の入り口に着きます。平城宮跡に入ると大きな広場があり、そこに集合して点呼をとり恒例の自己紹介を行います。

ところで「ツバメのねぐら入り」のことは、昨年5月の35回例会「奈良、西の京を歩く」の薬師寺でMさんに教えて頂いて知ったのですが、

去年は、例会の年間計画がすでに決まっていたので、今年の実施になりました。

自己紹介のあとで、Mさんから「ツバメのねぐら入り」の説明をして頂きました。そこから近くにある「大極殿」西側のヨシ原のねぐらに行きます。



夕焼けの時でもだ明るかったのですが、数十名の方がすでに来られていました。後方には平城宮跡の中心建物「大極殿」が見えます。

「大極殿」を背景に記念写真を撮り、皆さんは思い思いの場所で「ツバメのねぐら入り」を待ちます。夕空には、すでに多くのツバメが飛ぶようになっていました。

18時52分、日の入りになり、ねぐら入りが始まります。夕陽を背景に多くのツバメが乱れ飛び、つぎつぎと急降下をしてヨシ原のねぐらに入っていきます。

ツバメの群れが目の前を飛び去るときは、どこからともなく歓声があがります。

この日のねぐら入りは、日本野鳥の会奈良支部の記録では、開始時刻19時11分、完了時刻19時21分と非常に短い時間ですが、自然の驚異を見学しました。この日、ねぐら入りしたツバメの総数は55,000羽だそうです。

4. 帰路につく

19時30分頃、ツバメもいなくなったので帰る準備をします。もう、周りはすっかり暗くなっていました。懐中電灯を持っている方は、点けて歩いておられます。ライトアップされた「大極殿」が印象的でした。

15分ほどで大和西大寺駅に戻り、例会は解散しました。一部の方は、買い物があるらしく残られましたが、多くの方々は平城宮跡20時02分発の三宮行き快速急行に乗車しました。

夕陽とツバメと「大極殿」の幻想的な時間は終わりました。



～自分史を書こう、体験記を残そう～

「心に残る人たちの出会い」を出版して

卒業生 樽井 敏彦

園田学園女子大学のシニア専修コースに在学中だった2017年4月、公開講座にて「自分史を書こう。体験記を残そう」という講座が開講されることを聞いた。「これまでの自分の歩んできた人生を振り返り、文章にしておくのも悪くない」と、考えて受講することにした。

講師の高賛侑先生の指導を受けて、前期は、大学を卒業して入社した会社で「協力隊」と呼ばれる組織で実施された新入社員教育の体験記を書くことに決めた。当時の協力隊は、単なる新入社員教育だけではなく、営業などの実践教育を通じて即戦力となる社員を送り出していた。そこで経験したすべてのことが、社会人への第一歩を踏み出した私にとって初めて目にすることばかりであった。50年近くが経過しても忘れられない強烈なインパクトを与えられた貴重な体験を文章にして残しておきたかった。

後期には、仕事の関係で55歳から訪れた中国で出会った人たちとの印象に残った思い出を書き綴った。その後会社生活を終えて通ったシニアカレッジで出会った人たちについて書き加えた。

人との出会いは実に不思議で面白いものがある。なかでも55歳を過ぎてから出会った人たちとの交流は、私の人生を味わい深く、彩り豊かなものにしてくれた。

講座が終了する頃には、書き留めた原稿がかなりの量になった。この機会に子どもや孫たちに何か残してやりたいとの思いが強くなり、先生に相談して自費出版することにした。

自費出版するにはかなりの費用がかかると聞いていたが、先生の懇意にされている方のお蔭で、私のポケットマネーの範囲(30部、10万円以下)で出版することができた。

1年間かけて自分で書いた文章が実際に本に

なると、少し照れくさい気もするが、とても嬉しいものである。

早速、親戚や親しい友人たちに配ったが、おおむね好評で喜んでくれた。特に本の中に登場していただいた人たちからは、逆にお礼の言葉が返ってきて大いに恐縮した。

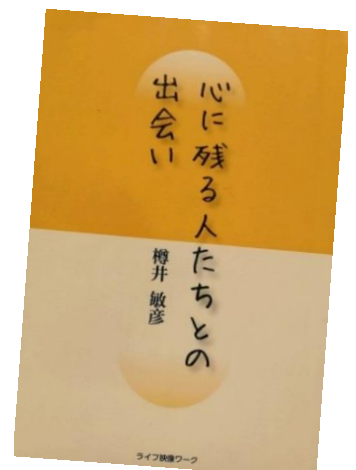
現在、他のシニアカレッジに通学しているが、私のシニアカレッジ歴も9年目になる。私がシニアカレッジに入学した一番の目的は、年を取ってからの友人に出会うためである。

「年をとってから友人になるのは難しい」などと言われるが、それぞれが人生経験を積み重ねた結果、他人に対する許容範囲が狭くなり、真の友情は生まれにくくなるからであろう。年を取ると次第に自分に固執するようになり、知人はできても友人にはなかなか進展しない。

私もいろんな人に出会ったが、その人の長所を尊重し、短所にはなるべく目をつぶって付き合ってきた。だが真の友人となるには本音の部分で理解しあえるものがないと難しい。私はそんな本音の部分で触れ合える人たちにどれだけ多く巡り会えたかによって、人生の良し悪しが決まると思っている。

最後にこれから自分史を書こうと考えておられる方や家族や友人たちに何か残しておきたい方には是非、本を出版することをお勧めしたい。

在学中に所属していた「けやき便り」編集クラブに1部贈呈したので、参考にしたい方は編集クラブに連絡いただければご覧になれるはずである。



～サービス付き高齢者向け住宅の実態～

「サ高住心得帖」

研究生 酒井 恵理子



日本は世界に例をみないスピードで高齢化が進んでいます。皆さんの周りにも、このまま自宅で住み続けることができるのだろうか、不安に思っておられる方も多いのではないのでしょうか。老後の新しい住まいとして、2011年に「サービス付き高齢者向け住宅＝サ高住」が創設されました。

私は、5年前から、神戸コンシューマースクールを修了した有志で立ち上げた介護問題研究会というところで、サ高住の勉強をしています。そのメンバーで、2015年に『サ高住の探し方』を、続編として昨年は『サ高住の決め方』という本を出版しました（信山社刊）。

神戸市内を中心に、アンケート調査を実施したり、色んなタイプのサ高住に見学に行ったりしました。そうした中で感じたことを簡単にお伝えします。

サ高住はバリアフリー構造であること、居室の床面積が25平方メートル以上であること、安否確認・生活相談のサービスを提供することが条件となっています。老人ホームの様に、高額な一時金が不要で、自由度が高く、部屋に緊急ボタンがあるので何かあった場合駆けつけて貰える安心感があります。国は絶対数が足りない特養や有料老人ホームに代わる住まいとして期待しており、2020年までに60万戸を整備する目標を掲げています。

サ高住のサービスとは？

サ高住に義務付けられているサービスは、安否確認と生活相談のみで全国平均2～5万円です。安否確認



の方法は、スタッフが定期的に居室に訪問するところがあれば、食事の時に入居者の様子を確認したり、居室にセンサーがついていて何かあれば駆けつけてくれたりと様々です。生活相談

は、日常のちょっとした困りごとを相談することはできますが、特別に用事を頼んだら追加料金がかかることもあります。サービス付きという言葉の響きから、さぞかし手厚いサービスがついているだろうと思ってしまうのですが、介護や医療、生活支援のサービスは別契約になります。有料老人ホームと同じサービスを期待していた人には「何もやってくれない」「こんなはずでなかった」という不満の種になりかねない要素をはらんでいます。

毎月の費用は？

サ高住は家賃、生活支援費が必要で、共益費については個人負担のところや、毎月一定額を支払うところもあります。全国平均10万～30万円。



最近では、前払い家賃として数十万円から数千万円を支払って、万が一介護が必要になった場合も、利用できる高級老人ホーム並みのサ高住もあります。私が見学した中では前払い家賃が1億5千万円で、露天風呂やプール付きのまるでリゾートホテルの様なところもありました。

どんな人が住んでますか？

サ高住の男女比は3：7位で、平均年齢も83歳が多かったです。大半のサ高住は18平方メートルが多く、連れ合いを亡くしてから入居する方がほとんどです。夫婦入居も可能ですが、別々の部屋を契約される方がほとんどです。狭い空間でずっと一緒にいるのはストレスがかかるのでしょうか。この先、未婚の男性の入居も増えるのではと思います。

追加費用は？

サ高住はあくまで賃貸住宅ですので、自炊は自由ですが、ほとんどの方は食事のサービスを受けます。外部で作ったものを温めるだけのところや、食堂で手づくりの食事が味わえるところ

ろがあります。食費の相場は1500円/1日。しかし糖尿病に対応した食事やきざみ食(50円/1回～100円/1回)などをお願いした場合は追加料金が発生することがあります。

食事の時間も、施設の様に決まった時間でなく、自由なところが多いですが、体調を崩して部屋に食事を運んでもらったりすると、こちらも(100円/1回)かかることもあります。

部屋に洗濯機が置けないところも多く、コインランドリー方式で、使用の都度に(150円/1回)料金が発生するところもありました。

お薬の管理も気になるところですが、こちらにも有料のところが多く、お薬を渡すのに250円/1日、薬を飲んだかの確認に250円/1日を請求されるところもあり、気軽にお願いしたら、ひと月15000円もかかってしまいます。一番びっくりしたのは、ペットボトルの蓋を開けてもらうのにも1回50円必要だと言われました。ついつい、これくらいならやってもらえるだろうと、安易に考えていたら想定外の請求がきてしまいます。しかし、最近は特徴のあるサ高住を売り物に、看取りや様々なサービスを付加して他との違いをアピールするところも増えてきていますので、入居前にしっかりと確認してください。

問題点は？

サ高住の運営には、株式会社や社会福祉法人や色んなところが参入しています。



これまで介護に関係のなかった業種も増えてきましたが、どちらかと言うと、不動産という観点が優先されて利益追求が優先されてしまいがちです。家族が介護に疲れて、緊急避難的に入居者を受け入れるところもあり、そこではスタッフが少なかったり、夜間は不在になるところもあります。スタッフも介護の知識がなく、何かあった場合に適切な対応ができないなど、安全面での不安もあります。

サ高住はワンルームマンションをイメージして頂ければ良いのですが、共同の浴室やキッチンがあれば、部屋に浴室やキッチンがなくても良いことになっており、居室が18平方メートル

のサ高住が多いのが現状です。お風呂も順番が決まっていたり、週に2～3回の利用しかできなかったりしたところもあり、浴室の利用にも費用がかかる場合もあります。お風呂好きな方にとっては、窮屈に感じることでしょ



う。サ高住は施設でなく、あくまで住宅ですから、介護度が上がれば、住み替えをしなくてはならない場合も出てきます。また、介護事業者が併設されている場合は、限度額ギリギリまでサービスを利用させるといった、囲い込みが問題になることもありました。

納得して契約を

サ高住情報は色んなところで手に入れることができますので、何軒か見学して納得してから契約されることをおすすめします。家賃以外に設定されている共益費、サービス費、管理費等は具体的に何にかかる費用なのかを、遠慮せずどんどん聞いて下さい。体験入居ができるところもありますので、こちらもおすすめします。入居して良かったと思えるサ高住をぜひ見つけて頂きたいものです。

契約時チェックリスト		契約日 年 月 日
はじめに書類を確認しましょう (もらわなければならない書類)		
●居室の契約書・重要事項説明書	一事業者名 ()	
●サービス契約書	【基本サービス】一事業者名 ()	
	【追加サービス】一事業者名 ()	
●その他の書類 ()		
○印はすべての項目を確認します。☆印は必要な項目を選んで確認します。		
契約 *誰とどの部屋について契約するのか*		
◆住まいの情報で確認することはありますか？		
○基本事項 【名称/所在地/連絡先/管理者名/契約期間/部屋番号/設備】		
☆契約方式 【普通建物賃貸借・終身建物賃貸借・定期建物賃貸借・利用権】		
◆保証人などは必要ですか？		

*上のチェックリストは、『サ高住の決め方』の一部。
*文中に書いたサービス費は見学先での数字で、全国平均ではありません。

*イラストは、全て介護問題研究会員の高松綾子さん画。右イラストは研究会のキャラクター「ついの すみか」さん。



《ざっきちょう から》

星占いと免許証



研究生 金森 扶美子

ある日の話。朝食をとりながら、テレビの星占いを見ていた。「あらま、今日は最下位だわ、嫌だね」と普段占いなど信じていないがチラと心に止まった。

午前中、明日予定の免許証更新の写真を撮りにコンビニに出かけた。

アレレ、5年前と違って、画面の表示が最新式になっていた。パスポートやら、マイナンバーやら選択肢が多くなっているが、私の欲しい運転免許証という項目が見当たらない。不幸にも老眼鏡を持ってこなかった。微かな眼で読むと「スマホ」という字が目につく。わたしや、スマホ持ってないもんね。最近は何んでもスマホ、スマホなんだから……ヤレヤレ。

それなりに考えて、画面を押していく。これでいいだろうと確認ボタンを押す。ああ、なんてこと！ 出てきたのはわけのわからない葉書大の用紙で、「スマホなんたら」と書いてある。どうしていいのか、さっぱりわからない。最近細かい字を読むのが苦手。嫌だな、800円損してしまった。

午後、車を走らせてカルチャー教室へ行く。教室に入るが、誰もいない。時間がきても2人しかいない生徒のもう1人も来ない。受付に「先生が来てないけど」と言うとすぐに連絡してくれて、「先生が一週間、間違えてたみたい。また別の日に振り替えます」だって。ヤレヤレ、ついてないなア。

まだ2時前だ。もったいない空き時間ができてしまった。そうだ！ 免許証の更新が間に合う。明日と思っていたけど、今日済ませてしまおう。書類を取りに帰って、交通安全協会でもた800円で写真を撮って——最初からそうすればよかったのに——警察の窓口へ行く。書類を出して「はい、免許証も」と言われて財布を取

り出す。あれ？ いつも入れている所に免許証が見当たらない。「あれ？あれ？どこ？」焦る。ちびまる子ちゃんの絵のように汗がたりり。

窓口の人が「ゆっくり探して」と言ってくれるが、やっぱりない。「すみません。忘れたみたいなので、また出直します」と言って警察の玄関を出たが、免許証不携帯で車に乗ってきてしまったことに急に怯えた。

窓口の人に「今日あなた、車で来てるのじゃない？」と言われなかったのに救われた気持ちになった。が、ひょっとして後を追って警官が来るかもしれないと思い、駐車場を横目を通り過ぎ、しばし歩いて様子を見るが、誰も追って来ないので車に戻った。でも帰り道、もうビクビクもので運転した。

はて、免許証はいずこに？ いろいろ探してみるが見つからない。そういえば身分証明のために出したことがあったなと思いつき、あったあった、定期入れの中にあった。えッ、では一週間も免許証不携帯で車に乗っていた？ 知らずにしていることほど恐いものはない。

ほんとに今日は、つくづくついてない日だった。朝の星占いがこんなにも当たるなんて思ってもみなかったが、まあ、たまたま偶然に一致しただけなのだろう。

このことを富山の姉に電話で話していたら、姉はキトキトの富山弁で「な～んゆうとんがいね。あんたのそれまだいいほうやがいね。私の友達なんか免許証持って車に乗ったことないがいと。夫婦とも商売してて、車に乗っとんがに。免許証どうしとんがいねと聞いたら、免許証は金庫に大切にしまったままながいと。もう息そったがいぜ(ひどく驚いた様子)」と返ってきた。ワオ！





けやきカラオケクラブ 探訪記

気楽に・楽しく・和気あいあい!

クラブの定例会場は、学校から歩いて3分、バス通りにある「まねきねこ」南塚口店。ここへ9月のとある金曜日、2時間目の授業の後、食事もそこそこに取材に行ってきました。

「いらっしゃい〜」と店のドアを開けると、店員さんが声をかけてくれました。「あ、園田の方ですね。上ですよ」と、人を見るのは慣れたものという感じです。「コップを持って…」と言われましたが、まず例会の15号室へ。

部屋の前に立つと、何やら童謡が聞こえてくるではありませんか。♪…から傘ないときや誰とゆく〜。シャラシャラ シャンシャン 鈴付けた〜♪ ああこれは、『雨降りお月さん』だ。この歌なら知ってる、と一安心しての入室です。2人がマイクを握り、交代で歌っていました。仲がいいなあと思いながら早速挨拶をして、月一回開催されるという例会に突撃取材です。

先ほど童謡を歌っていたKさんに十八番は何ですかと聞くと、「藤あや子の『むらさき雨情』と、『三百六十五夜』やね。これは霧島昇の歌」と題名と歌手の名前がセットで出てきます。

「いつ頃からカラオケで歌ってるか? 亡くなったお父さんとスナックに40年も通ったで。私はお酒飲めへんけどね。今のカラオケと違ごうてな」と質問には枝と葉をつけて丁寧に答えてくださる。「息子の働いてる所に春と秋に

年2回行かなあかんやろ。そやから、恥ずかしい服着て行かれへん。今でもそうやで」。最後に「自分の人生やから、楽しまな」と、クラブの神髓をKさんから教えていただいた。

♪人は誰もただ一人旅に出て〜人は誰も故郷を思い出す♪の歌が聞こえてき

ました。この歌は、僕が高校時代に流行った、シューベルツの『風』で懐かしい。次に♪…私の踊り子よ ああ船が出る…♪ これは聞き覚えがあるなあと思っていたら「三浦洗一ですよ」とすぐ横から教えてくれました。

こうした歌の合間に、部長の木下俊造さんがけやき祭出演の話をしたり、出席の確認をしたりされています。前月の例会で歌われた全曲一覧が配られていました。「クラブが始まって4年半でおよそ700曲。めざせ1000曲ですよ」と部長さんが教えてくれました。

安室奈美恵の『CAN YOU CELEBRATE』や『また君に恋してる』の熱唱あり、「ソレソレソレ!」の合いの手あり、お喋りもいっぱいでした。『夜桜お七』を歌い踊る姿に恐れ入ったり(?)もしたクラブ探訪でした。

気楽で、楽しく、和気あいあい。歌い放題、喋り放題、笑い放題で、ソフトドリンク飲み放題、4時間でワンコインプラス50円は安い!!

(写真と文「けやき便り」編集クラブ 河田)



読者の広場

魔界へ

研究生 伊藤 幸子

これは幽歩クラブの**30**名が京の魔界へ足を踏み入れた話です。

①耳塚

秀吉ちゃんが朝鮮出兵の時、明国と戦った証として、耳や鼻を削ぎ持ち帰りました。その後耳塚を建てて供養したのですが成仏出来ず、自分の耳や鼻を探し求めて今も霊が、うごめいているのです。



②血染めの天井

伏見城落城の時、自刃した武将たちの血のりのついた板を、天井に使ったのです。何ということをするのでしょうか。見上げれば血の跡がくっきりと浮かんで今にもうめき声とともに、血がしたり落ちてきそうです。

③お墓の中で生まれた子供のために、毎晩飴を買いに来る幽霊

今でもその子のために、幽霊子育て飴本舗はあるのです。



④あの世とこの世を行き来していた人

この世で官僚、あの世で閻魔君の元で、弁護士のアルバイトをしていた小野篁（おののたかむら）、まだ行き来出来る井戸が残されてます。

⑤どくろ町

このあたりに死体を捨て



ていく人が多く、人骨が無数に放置されていたのでこの名がついた。今はろくろ町と言う。

⑥風葬の地、清水寺

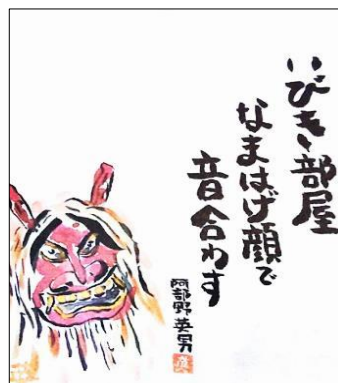
清水の舞台が突き出ているのは、死体を投げ捨てるため。本殿が高いところに有るのは死者の臭いがあまりに強いから。清水寺はそんな所だったのか！！

こうして恐い体験をした私たち**60**名？は無事帰ることが出来ました。

「絵手紙&川柳」4選

文学歴史学科3年 阿部野 英男

↓ ”いびき部屋なまはげ顔で音合わす”

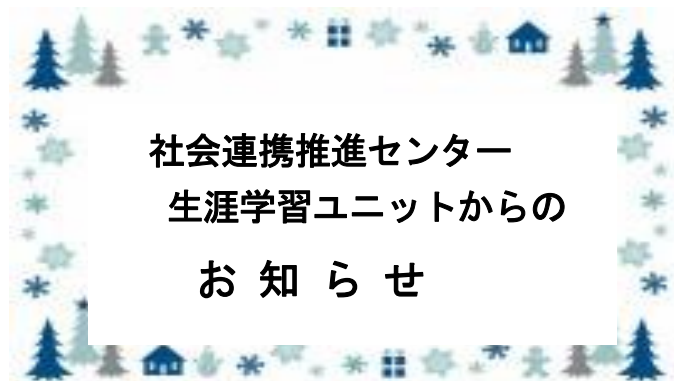


”下戸だけど演歌ガナッテ酒学ぶ” ↑

↓ ”ありがとう言えた数だけエビス顔”



”老夫婦あぜ道歩く影一つ” ↑



社会連携推進センター 生涯学習ユニットからの お知らせ

窓口が学内の 1 号館 1 階に引っ越しになり、7 か月が経過。新学期当初は受講生の皆様には大変ご不便をお掛けしました。現在は多少落ち着いてまいりましたが、出入口付近のスペースの問題等、今後も改善に努めてまいりますので、ご理解賜りますよう、よろしくお願いします。

園田学園の生涯学習が今年度 40 年、また、開設 17 年目を迎える「シニア専修コース」の伝統、そして、専門性や学び易さ、親しみ易さなどの観点から、次世代に向け、より改善の方向性を探ることを目的に実施いたしました「アンケート調査」にご協力いただき、誠にありがとうございました。在籍者数 365 人中 108 人（回答率 29.6%）の皆様方のお声を頂戴しました。今後、来年度事業計画を進める上での参考にさせていただきます。

今後、可能な範囲で回答、ご質問にお答えする予定であります。皆様のご理解、ご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

1 2019 年度 4 月入学生募集開始

11 月 19 日（月）より希望者の面談・授業見学予約受付開始します。募集リーフレットが完成しておりますので、ご友人で関心のある方がおられましたら是非一部お持ち帰りいただきご紹介ください。11 月 26 日（月）から 2 月迄の期間中、一部授業を見学・体験用に公開いたします。皆様のご理解、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

2 後期シニア・ミーティング開催

後期ミーティング（意見交換会）を
12 月 7 日（金）4 時限目（14：40～16：00）に
開催します。各学科・学年から代表の方、又、
ご興味、ご関心のある方のご出席をお願いします。
詳細はセンター前掲示板でご確認ください。

3 今後の予定

2019 年	
1 月 11 日（金）～ 2 月 28 日（木）迄に	研究生新規登録・ 継続手続き
2 月中	特別講座開催
3 月 8 日（金） 13：00～14：00	2018 年度 卒業式
4 月 11 日（木） 13：00～14：30	2019 年度 入学式
4 月 11 日（木）～26 日（金）	ハンドブック・時間 割配布/履修登録
4 月 15 日（月）	2019 年度 授業開始

注意 2019 年度の「学内レントゲン受検」は授業開始後の 4 月末以降に実施いたします。（現在日程調整中）「他機関でレントゲン受検の方」は、2019 年 1 月以降に受検した健康診断証明書（胸部 X 線検査）をご提出ください。

4 さいごに・・・

本学公開講座・看板講座である「人間を考える」の 2019 年度テーマは、「人生を楽しむ」。現在、学内外からの講師の手配準備を進めています。また同様にシニア専修コースからも「人生を楽しむ」をテーマに教壇に立つて頂く研究生お二人を募集！自薦他薦問いません！お待ちしております。

生涯学習ユニット・スタッフの

「ちょっとした私の楽しみ方 ～ご紹介」

松葉（所長）：栄養サポートをしているアメフトチームの
試合観戦
大野（課長）：格闘技系エクササイズでストレス解消
増田：茶香炉でお茶を焚いてリラックス！
奥山：学内で、季節の花や草木を見つけること
南部：家族が寝る静かな早朝に一人で白湯を飲むこと

☺社会連携推進センターからのお知らせは、
センター前掲示板やHPの他、以下からも発信。
是非ご覧ください！



@sonodasyougai



@sonoda_syougai

『けやき便り』への投稿について

1. 「けやき便り」では皆さんからの自由投稿をお待ちしています。題材は、クラス・クラブの活動の紹介、趣味（旅行、俳句・短歌・川柳・絵・書・写真・イラストなど）の紹介、何気なく感じたことや思ったことなどのエッセイなど何でも結構ですので、どしどしお寄せください。

2. 原稿について

原稿の長さは自由ですが、目安として、0.5～2ページ、1ページあたりは写真・イラストを含めて本文1400字～1600字程度です。

① 手書きや印刷物で頂く場合

様式は問いません。学習センターの事務所の『けやき便り』編集クラブの連絡Boxに入れてください。

② パソコンを使用される場合

下記アドレス宛にファイルをお送りください。

櫻井秀也 hideyasakurai94@gmail.com

④ 写真掲載について

『けやき便り』はウェブ上にも掲載され、カラーで見ることができます。写真付きで投稿される方は、肖像権などの問題が生じないように事前に撮られる方の了解を得ていただくようお願いします。

3. 次の内容を含む投稿はお断りします。

- ① 宗教・政治に関するもの
- ② 公序良俗に反するもの
- ③ 一般常識の範囲を大きく逸脱していて、「けやき便り」編集クラブが、掲載することを不可と判断したもの

4. 原稿は、止むを得ない場合に限り、変更・修正をすることがありますのでご了承ください。

- ① 紙面のレイアウトを整えるため
- ② 編集クラブで気がついた明らかな誤記や不適切な表現を避けるため

5. 頂いた原稿は、編集およびページ数の関係上、最新号に掲載できない場合があります。

6. 投稿される方はお名前を書いていたいただきますようお願いいたします。無記名・匿名・ペンネーム等のご遠慮ください。

編・集・後・記

編集部員になってだいぶ古株になった私ですが文章を書くのがどうも苦手です。

投稿して下さった旅行記や、専門的に研究されたこと、各学科の活動報告等々、校正の段階で読ませていただいておりますが、皆さまの素晴らしい文章力にはいつも感動しています。

これからも多岐にわたり投稿をよろしくお願い致します。
研究生 平田 好子

年に2回のこの秋号はたくさんの実りでいっぱい。「けやき祭」然り。そして各先生方との校外学習の様子。学校では味わえない先生とのふれあいが満載。「サ高住」や「ざっきちょう」の話。これから老いに向かう私たちにとって「ふむふむ」「そうよね」と身近な話も嬉しい。

「けやき便り」1号からのこの歩みが礎となり今の19号があると思うと、校正をしながら万感が込み上げてくる。製本されたら秋の夜長にゆっくりと味わいたい。会議のあとのワンコインたこ焼き（ビール付き）に向かう空を見上げながら俳句のような川柳を一句。

「夕焼け空 明日の希望が透けている」

研究生 西島登志子

国内外の旅行記をはじめ、たくさんの素晴らしい投稿に支えられて、19号も無事発刊することができました。

私も本号の記事にある『遠野物語』の旅に参加しました。遠野物語の舞台や宮沢賢治が生きた岩手の空気を吸い、南三陸の被災と復興の現場で話を聞いて、現地に行く事の貴重さをあらためて感じました。そしてまた旅に出たいなーと。

私たちは「けやき便り」が、どなたにとっても自分の今を気軽に発信できる場であれたらいいなと思っています。

文歴1年 櫻井 秀也